喫茶活法　完

ヲ 9
654

喫茶活法

[seal: 宮内省図書]

[label: 門 多 ヲ 番 654 巻]

喫茶活法目録

一 茶湯荘厳（シヤウゴウ／カザリ）之事

一 其品々荘ハ別紙書之冊数々荘初座後座ニ半ニ荘事有之ハ道之子細ちがひハ法ハ湯ニ高く入数ハ悪湯の数ハ高ささ入ル脇七々三又八十一ヶ月茶事一三五七九是湯数之 床ハ是添花時 棚香爐香箱三羽又床掛物斗之時ハ棚香箱三羽 軸床是添真棚ならん三羽 炭斗なしと文炭斗在ニ三在しぬ数ニ不用落花茶碗之内ハ茶入ぐく茶碗茶巾在てとも〔とる数ニ一つニ用之つしの内ニ入れ候わ好之無仕候ともてとる数ニ一つニ用之又長盆在無之目小茶是ハ二つニ用但長盆茶之目之有数ニ不用又大丸盆ニ乱飾茶之目小つぼ向茶碗前ニ茶杓是ハ数ニ不 ニ用足ニ茶数ノ時之一ト其ニ用ちやし殊ニ只今子細有之

一 釜ハ茶やしきんノ数ニ不加子細ハ釜ハ主也 余ノ子細ハ容次第ニ客座之肩ニ在事 [illegible] 古荘敷五十余條ノ伝授ニ有 但其内用之一つ

たゞし炭は一つ釜ハ定也一つ釜ハ定ノ子細口動一つ釜ハちゃうま
数よ不用大ノ内上大ヶ條也

二　惣別茶之湯に来時分之事

一　惣じて茶會五度之　夜込とて明ケ七つ以後夜の明ぬ先に来し露地へ入
わんと申ニ立て囲へ入てかんどんにて置し七さ出茶菓子出て
かくして囲を出て内の外露地にてさ面白り亭主見付てさし出
なぶして炭引入て定ん中ニ置て夜明て囲へ入候ニ夜ノ
けい氣のもゝけ此定日の出も移りてのけいもと此色に気にて夜込
と云ふ　朝すきは夜明て来る早之ニハ亭主の露地にも出来
炉に雅也手得出るゆゑやうに来りて亭主来る菓子に間八出て
懸りけ、桐候と是大度より此の得出也し　昼會ハ九ツ時
すきは暁ハ八つ時　夜會ハ暮て可来亭主とりし炭取にとり
庭浦りんけ、尤とも共に夜も文度ゆるくと相待亭主附来る
たまや　五度の数茂　但夜込　朝数寄　昼會　暁　夜會此上五ヶ條、

三　客人の露地出後以前亭主之待之事

一　客来ニ数寄屋の内ハ掃除して茶釜はしかけの前へ入なり書院床に
炭斗次々もんぐ取り調へ皆々道具茶巾まで揃へ露地に
出て掃除し、右ゆるゆる釜の水をと茶入の柄杓もちりなきの前にて
かくりもりもん故たる花入にかゝりにん手合掛けのはすおろし調へ置き入
中くびてまき入のうちにはかり、今して客に菓子出し其度も囲の
口より釜入り、段て釜を置し　先客の亭主より右ことく客をと
たれより中立ちの前のすゝ蓋をして茶入切り前以露地にて
外そて太く水加へし　亭主の内掛袖半後也

四　客人露地入る之事

一　むかしは侍余木履かけあし有職分袖をてども腰かけ客衆揃又ハ
上下ニ而も段亭主口に入ても侍合又ハ腰かけ客衆揃之　亭主は客衆揃
中くぐりに迎ニ出て後先立く上客にて入てそて二人入口辺じに入て

庭ノ樹石なとの冗も洗浄を心ニ付正客をと請かつく力掛乃
追すて気を付し三人〇又人ハ後にかつしく立て入レ時さら露隠
又ハ後ニ次第のとおりして力掛大小主てもとり上り左右ハ入ニ人を
二人ハ内ニて掛物床掛申かし見て席だま内時ずをとりぬだち
上り合ハ入合又ハ人後に付ケ得ず是也未門にて見あのさし中に諸念設く
候事也人ハ無法也

五　手水そへい柄之事

一　手水ハ庭ニ囲入ル時其いて亭主方せいそ必念し内路にて
手の汗をも又有所ニ置見る也而ハ外盥ニて手水掛せしまる
すし後段門詰かく手ゟ洗浄し袖ハ門詰之洗浄ず事執念
湯桶出す後付さに必寒天ニハ湯桶出し寒には湯桶を出し候　初心にハ
始よりの仕様柄ハ出なりくと見合ニ始めつけてかしく出し置候
そえ出へいと勝ニくささニ又ハ力見れどにかけて手の多寺洋ハ心得也

あすくなき浄ハ諸人の手の汚れかたんに付けかまわす渡し亭主ハこしやくと
水参うけて手洗がし亭主かさら手洗可ひ掛かしさしやか参るく
亭主ハ刻いて立廻し

一　手水浄始て定るはすぎ事ハ　夜迹　朝會　雨ふり　雪ふり　作意隠
之浮時の家気まで同断

一　上客手水の時二ノ人後ハ設けつるは露踏し上客見ハしかく見る流し
二三ノ人皆共浮立一し

一　手水ハ二つなと仕かし一つハ時によりて紙包封して会之中えうし
相客流せし時斬捕せしかまた

六　朝會にハまかされて大すて急ぐはなき事に候とす

一　朝會ハ夜迹ハ朝會よ客見之のこと延迹々かにに揃見之ともハ待合と
中ス勝けるく客見来る次第回ハまと伸しゑ昼會ハ迎迹立てハ手
初来る人待設けしく待し先着宗也ゆゑ待しくまの事人々ハ迎客
夜迹朝會ハ其種客見揃見席茶又待しく洗て見て之時まて客分

位ハ流ノ時モ元ニ同シ。なるゝ右文元つゝますとけんかれハ也云

七　力足之作法事

一 首ハ力足なりとて小腕捻して全体之事ニ心得さすへし位元
茶時ニ上りかに打出て立々客元腰をかゞめ廻て出て客身
中ハ合時の心ニ気をそらす事し（圓ハ内ハ気をくに
香ありし力より上りの時ニ打出立ニ腰をかゞめを渡りに
れ見て立目で圓の会とかたれハ客元むきて其合ニ力足有

一 力足ニ位上刀下腰指掛ル但貴人高位有大小ハたニ上位の室ハ位ニ
下ニハ掛ケし立位下位ニも爾ニ先す紙畳てかゝゑそうける
の室中其の時ある者是ニ心得へし

八　扇之事

一 圓子扇ハ事多き哉。茶入盆ヲ置きさ候ニ若子ニ
三方ゟきりきてそそくにれハふわりて貴人前ニ扇補したる扇ハ可有りし

圓子老足ハ奥深く織なしてなる人のため腰を屈してなる也紙也掛かん
道具出てくる入かゝりすゝへ又執て扇子をさしをく勤て元府足ニ
後ニ扇出しきを執りよし平座き後人の座につくへき事有

九　客人之亭主之作法之事

一 に上りより上り前てゆるりと亭と前へ出て但亭主又ハ二坂せし
三坂させしよりゆるりてゆれハ其亭主を順ニ居へしし立ちかけて
出て時も二坂三坂のセしの時ハ勝手ニ出て座を定め客人ノ外ニ
圓の事もと茶ひかへ候てそろそのそきて内ハ座ニて座の年増の外きし
にかれもり入て内ハ大ニあけて不入へし

一 に上り上りて次順ニ浦ニ居に出て亭主掛物を花のセくと
先花を置し上ニ茶を出て口をすしに勝手見て上客ハ次座
外ニ三度へ合掛のけんすゝ勢して内ハ入座へし

一 先其前ニ掛物見んで誰筆と墨り是ハ一文字中上下軸へ心付て
見んて後其上ニ至り高キ所のよりし位ニ見へ様して

上下炉中見へしに花桐三羽の香箱か香炉か釜かんなと
見る所ら下火入持出て炭見て花いけ出て炉せきき二畳に三畳も又
入所と入る間以下かへでこころ中入の時花置れやくくらく其時切に
入候て中立の時残念とて又座に出花見えて炉中よく見て立て
後座の時も初座のやくに云上りてめん座んして入候へし
にて上り戸さし也の入まって候しか亭主する也に立候

十　亭主出て礼に時分を〆

一　客兄座に花入物んのか同じ結に出て炉中をよく座へ出て
呼て出て申は客兄座炉相しに出て炉相をめんよりとく宗親て拝見して
但茶入て見より出相拝見し戸せしに入る炉ハ台三寸程明て置也
拡入へくちらく明ケ候初見めんも台三寸程の一礼茶也
て口へかしの一文ハ座にて拝見とされ所入て見るいだん出る一礼
わろくし其後にて炉時ハ炭斗持出て炭出し風炉時も
きらしに出て一礼りてて此時亭主料理出す

居て又出て料理出スへしとて亭主出座してか持之給へと出す
へし

十一　亭主炭と申候之事　釜をあげて　釣釜の事

一　礼して炭斗持出て炉の右ノ脇に置て釜かんを掛て釜蒲紙を取
こ後ら取出して水指置り取に置て釜蓋を紙上に置て其上に
中通し又ハ花入へきて也とゝ是て釜かんをはつし置て炉辺にて分
羽にて炉中三ノ三羽右ニ向て見て置て此時客兄下火を見て火後を
亭主見て炉へ持出て三羽のそばに置て下火の所を見ゆ也
と火を直き胴すこしよけて置候ゝ炭置して炭を見て炭
香箱取出して炉の羽箒風炉羽を鐶羅又ハ手を以て置所へ
香合取出し又三羽取て炉中を見てはきて湯の湯をかんへ入て
羽置くて持入出て水次持出て水次の上に柄杓を置きて茶碗
出して三つ水次入て釜かけて炉中を見て道具出て来て炭斗

一 拵入ル時料理出かとかくして亭主それに志ける炭底ハ此炉
さい炉ノ炉ふくさて湯ひさげ炉埋し時よか出す嗜
香箱出入ル中柱元ヘ時ハ手前ヘ出して炭手前の時も同し
中柱あるはきりひし子細ハ釜しかけの間ヘ手前ハ見合
一 炭斗ハ先ヘ出し後の時ハ釜ハ右ニ置へ／して後さげて置
風炉ハ時ハ釜ハ右ニ置へし置そて又引かけて
置ても

十二 炭をれなし時ハ時分ニ付

一 亭主胸すゑ入ル三ツ四ツ入レテ見合細炭入レテ見合主好量斗入テ香炉
香合 真ノ臺子ニハ香箱香合も時常 同前
一 風炉ハ時ハ炭して伽羅入ヲ火つき底亭主立ても時炭も
見合見て一順立て見合亭主ハ其間ハ湯ニ居て見物す
出候

十三 香箱香合ニハ時分ニ付 付リ火箸香合ニ付

一 真ノ臺子ノ時香箱香合常ニ同ニ並置ニ子細ハ
茶ノ湯ノ次第ノ作り台目ハ縁ニ香合なし飾置茶ノ作法有
よつて茶ハ丸ノ盆ニ十リテ後香合をあれハ又茶入ハ袋ハ肩ハ新切デ
香合も香合なし後世より名物も香合さかん事関て出る也
一 香箱見ても炭斗ハ合子ハ常ハ出して香合も 香合置
後だけに正客のそばに置て時分見計ひて出して入ますべし
一 火箸香合常ハなし真ノ臺子後炭ノ時炭出して香合す
然レ又常ハ亭主ニ出して後炭ノ時香合の後香合も
火箸ハ南ニかれのす子頭丸に一文字に置して置し
れらかんわかるへし
一 火箸出す事ハ二本たて可出又一本出して右ニ置ハ銀かまとも其子台
有り也えし見むと云大ニ取て見合へし
一 大板ノ上袖ノ文小様もそも上ニ袖元ニかかる火箸足取らし香合時

一 大夜の上又ハ出後ハ其ての上ニもかなへ足をわ見候ハ一本おきて又て今
も帝にハ出付寸に至そりんて折たわれ候ハ着ニ本にしておくくに
到て退り起てのそのむさし亭も出き然ニおきて見得わかし少々着け
荷しまけ少へ一つ詫て見わ計り

十四 風炉之時炭を置し炉法之事 炉の分も用る

一 右炭ハ炭も出す儀も前ニ書く

十五 膳組法之事

一 膳ハ奥よりてうすく出し可し長かとハ三ケ所に長さ長くも出る
ねそハかし常のごとし吉 二汁三菜ニて汁一汁二さい吉

一 亭主膳出す時ハ同食次の下ニ並くて其盃しけ入て

一 三度目食ハ亭主よりて出す盃しは次に入れ出すおく入て
出す吉 酒ハ盃し而ニ出て吉吸物酒二扇程吉者一程出て二程吸物
出て吸物ハ湯盃湯桶つき持し 入金合て出る

一 膳ハ菓子汁出て入れ並して初膳出して寄りて客衆へハ汁と
須ところし口出て取て来いハ後ニ汁出して食次出して汁ニ入之ニ汁
又出して来り後から出てかに流し入れ置し其時客衆
食ハ汁とこハ箸より膳出す置て出すハ酒
酒出して又に出て菓子出して口出て亭主ハ入食番衆

十六 膳法もし法法す 右十条ニ記し

十七 詫しにお寄時分之事

一 客衆ハ前よりおて待ち候ハ常之事也茶ハ客し同前水
うちて待たし菓容して而ニ三度之客衆ニ待合又ハ掃除ニ
樹ハ門盥ニ而行並て炭水や中水ハ客衆之金ニ大盥
酒ハ門中盥ハ湯の時分也盥ハ菓子ノ時ニ手を中
へとて立ハ茶ハ出ておき手水客衆へと

一 夜會ハ水ニ入す又春の夜秋の初めかくて出し之迄なとわ

打て火のつき様ちてよし

一 あらかりの前に立より打風立し湯なり打余り下ノ時ハガチ
熱して打たえうらて其湯に客入ハ水汲ひしゃくて置し 大口出て
入らし名をれ向ハむさし打て水ハ一置し 後ち茶也かり取さし
たしてにいたすれ

十八 客中立組流事

一 勝ハ云て立時も目より極大れハ流せりんて上客ニ能て立出べし
メの人ハ菓子の盃など揃てきまりしにハせうけて道具揃なとも
りん前ケ申しても落てわまはれて出にかりかりメテ出べし
むに立り上りの戸ハかたよけよりに立なを沙汰の時も用し

一 時して中立にメ人先に出事も常は立し子細て座もなす物
立ても又下手も次第よりこ組も上客こ人立候ノ次第
それハメノ老分来同前ノ人かる時ハ先に出て或いハ子と立
又ハ勝手先様出しかして後又座ノ内よく見て入座
亀紙にてわかはれて出りより立りて出べし

十九 當世二畳補より居替り後子四畳事

一 古田西来功上段風なる九二畳後にてさまりしにハ下ノ方かりてと
客初座後座とも用いず替れ可也し 古田織部殿座ヲ袖ニ付け
ら洗きりしに上座せ今事也ゆく上客初座ハ上座居後座
常也不れ居替り二ツすべそれに客座ゆり見ても下又ハ次第上りとく
あきらんして入れる其上こ客入合わる時ぞせハ座敷くハそう
かり用しすなくそうりまし

二十 客二畳補に出入事

一 亭主茶によう座に入時茶に当て幕にむかいて居れハ續時は
其文幕をわけて見んハ勝手おりて大にかへし又にしめて座入へし
そこにしやり時にツ三寸よせおりけてさるくとわけて事なく客に
出す事て一礼て初座ニハ出よりの又ハ其かわか出て入べし
右膳出の時れの足よう足にちて大膳出の時ハ右れ足合

先にふミ迄出皆〔?〕にしよし

廿一　茶立仕時腰懸之紙之事

一　一切ニ中れハ同事之〔?〕紙腰ニかけて前ニ□足ヨくりかして
志り〔?〕は通し〔?〕て腰掛之後ニ置て亭主被下候へく〔?〕候
是〔?〕ハ是れむさと〔?〕むく時ニ用なる茶湯之地誌〔?〕

廿二　こき茶立出し仕時相合と礼之時分之事

一　初座〔?〕香〔?〕炉〔?〕取時上客より下座迄廻して見る也後座ニ茶出し上客より
座中へ茶碗を出して志づかに取りて後上客の茶碗を取て下座へ
置て見せてかへして〔?〕吞て茶碗を下ニ置て次の人へ渡す也
ひさもさにて〔?〕の出来事ニ御覧〔?〕出ニ〔?〕ヨくにおすし候
是〔?〕是〔?〕暗〔?〕

一　相合之時ハ上客呑て次茶碗出して次の人茶碗取時亭主へ礼する
是様〔?〕呑て〔?〕次の人渡したる礼之次の人茶碗取て一寸〔?〕時を

客礼ニ合れハ大なるいく〔?〕茶を次へ入てきれハ上客へ礼時宜を致して
茶亭主〔?〕ニ対して〔?〕の次第〔?〕取りゆく礼合れハ是ヲすかその礼して茶を
出儀〔?〕有て〔?〕すこし可得

一　茶を入れ時申出して上客時宜して見る
一　平茶湯ニハ茶吞て茶碗亭主ゟ出して亭主湯を水を茶碗へ
入てすゝぎし時先の仕合よくと云亭主もこれを見て後薄茶進上一
中として茶を立すして亭主へ置て菓子ハ此時宜客へ
中よりす後ニ〔?〕之ヲ座中ゟ呼〔?〕出て〔?〕茶入仕して出て茶を
出す〔?〕之茶を一ツ〔?〕して茶を入れ〔?〕〆此時の事なり左座
あつかいと茶ニ〔?〕て〔?〕相客ニ茶を出さすハ此時肩衝共〔?〕包
ミて見〔?〕候し

廿三　薄茶之時之時宜事

一　これハ茶之湯へ出て茶碗出し上客より〔?〕見出し大方相合て上客
へ〔?〕さらて〔?〕吞へ[illegible]

一 うす茶の時は亭主へ一禮有て後茶のみて茶碗をいたゞきて
亭主へ出し其後茶の一禮之

廿四 手前遅速之事

一 茶道ハ手上りの時やたらにいそぎてはやくかへして茶わかしかけて
よきかけて茶わかすハかゞみを文句にせかするをまぎらかし
茶碗湯のみよく〳〵入目をわすれまいぞかやうに御心得よ
茶を入て後そのまゝ早く釜に掛て湯をさかし
てしまるやうにはしやすく茶入茶杓を
御そむき入湯ほどよき時にいそぎ時に茶事ハ上りて遅速
陽すこしとりてすむ也
一 禄ハきよき也　静ならしよき也　よきさまよき也　清のきよき前
にてもすむ也すむもよきなり　静人よき也見苦敷
一 清よく心得べき也

廿五 庭入して表座敷時之事

一 古庭入して亭主出迎一禮有て後に座亭主出ずとも何へ
時にしこ御座り茶道時より出して庭入にて
茶菓を出し三方の御茶通ハ料理の時ハ作法にて座亭主の
物事の時分にしこ御座り其後茶之時ハ料理にて座にて

廿六 物毎ほめる時分之事

一 亭主茶をたてて出し客の時いたゞきて茶碗にて茶碗を帰時
いかにも文ハ三子にて上にて主人茶碗ほめて客御心にて
ほめてよきさにて御心得べし

廿七 客座一同に一禮して一禮之事

一 客一同禮ハ腰をかゞめ客来て亭主出迎て後に時に挨拶を
立出て一禮ハ同座入て亭主にて茶口へ出て禮し時同座庭

茶立ず亭主自ら茶碗持て出床前や　茶入ふくさ入れハ其上ニ手洞
花前ニ置出して花をも又ハ拝見有ハ其濃茶ハ一同拝見之座敷
御時分一同

廿八　諸事ニ付かんしよ可成時分之事

一 掛物ハ不及申諸道具ノ亭主ニおいて見計候時分を考へて可然時
釜なとの無之間ニ立て候て亭主可申と考亭主座候時
まるく茶碗なとも拝見ハ可致と見合其後花入茶碗なとを拝見
ニ而も心付候ハゝ互ニ見合候をよく心得て亭主にも遠慮し
座敷ハ樹木の案内をも仕見合候て又座ニて直ニ其事可有之
也の決り之又亭主も心得て可有之様ニ致し候へく候

廿九　廬の事

一 其より所ニ文字なとハ可然所ニ置候て随分しよう座の内わさと表
見ゆる様ニ致し心得て随而の内より是を御指ニ付て廬ニ掛テ
から所へ程して座敷の内朝日昼の内より夕日うけの所より外よく
見えてわかる内ニ文墨をも飾候の内文墨てハ其品ニよつて
わかれハわかれ其ニとかんがいて其より座を見てうす事とわかる
善候得し亦すことわかる座の内をハ廬の内けにて候よりて
能様ニ可致へし

卅　黄戸之事

一 黄戸ハ炉ちまちハ露地のけ戸を引して其座の時ハ黄戸うけたて立や
夜は茶湯者ハ戸うけ置て座の内ニハかわりの色紙なとを立候
抔候ニても

一 夜咄ニても昼の茶ハ炉ちなくハ亭主之手すい武ハ茶事の時ハ文ハ戸うけ戸之可し
亭主て夜咄ニハ茶中ニ其より年す由ニ而も内より咄にて夜の初め
案内之にて可出し又夜咄の客ハ夜もの事ニて座入て早く
夜咄れハ料理なとも戸う戸にて其客ハ悪く客早り集り夜深ハ
也可し其て飯吸物又飯て亭主にして朝等ニ可有之し戸うけ戸御

一　庭ニてすゞしく席中立申武之候ハ、[illegible]ニ付テ結[illegible]
度會ケ戸不[illegible]ニて[illegible]の未秋の神火氣を申候ハゞ
出戸一ヶ所と二ヶ所まづして云又ハんけいゆえ[illegible]
[illegible]し出戸同[illegible]ともし　それよし

廿一　[illegible]しめす

一　[illegible]ハ[illegible]しまにかきし寸二尺五寸[illegible]三尺[illegible]
まけて[illegible]切テ道具置と上三尺入[illegible]切と云[illegible]
[illegible]切

廿二　三尺五寸ニ有目一尺ニ天目[illegible]の[illegible]天目かざる事

一　有目ハ[illegible]ニ[illegible]切テ[illegible]ニ云一尺五寸切[illegible]寸[illegible]
天目と云一尺五寸と[illegible]ハ天目と[illegible]子[illegible]
目を[illegible]百[illegible]目と天目[illegible]長[illegible]
一　道具[illegible]一尺[illegible]ニテ[illegible]中[illegible]切[illegible]ハ[illegible]文[illegible]上テ

切[illegible]ハ天目切[illegible]切[illegible]ハ[illegible]
[illegible]天目切[illegible]文長[illegible]天目切[illegible]

廿三　[illegible]天目[illegible]

一　[illegible]天目[illegible]切の[illegible]平二尺[illegible]切[illegible]
[illegible]切[illegible]一尺[illegible]天目[illegible]

廿四　水指[illegible]持て出[illegible]

一　[illegible]ハ[illegible]水指も[illegible]付之[illegible]出[illegible]
水指[illegible]て出て[illegible]ハ[illegible]水指[illegible]
[illegible]目[illegible]して[illegible]見て[illegible]
[illegible]氣[illegible]
水指[illegible]も[illegible]

廿五　茶たて[illegible]て水指[illegible]小[illegible]す

一 釣瓶水指ノ如くハ蓋ヲ取テ水指ニ柄杓をさし置て其ぬくさ入て取指
ト右ニ向ケテ置テ取指ハ右ノ方ニ置テ蓋ヲ置べし
からぬ事かの事や
一 さる事ハ水指棚の茶わんの水指ハ前ニ寄せ
除くべし炉の上ニ置て其右

廿六 釣瓶口水指之事

一 釣瓶水指とて名物あり是ハ其ノ方ヨリ向ニテ指前ニ置る
代様ニきる物ありて此ハ手桶らし添ハ置物スル事也
索見ル事ハ前ニひく事ニ成とも長ク前ヘ出しては悪し
乃道具ハ前ヘ右ノ方ニ置て流也
其ノ蓋ハ手前ニ出て蓋ヲ取て柄杓ヲ取る
程ニもす事なし 茶碗を取て指出す物ヲ取て
柄杓ハ右ノ方ニ釜ノ上ニ置て其ノ後ニ流し
乃時ハ此茶碗ハ右ニ置て其ノ後ニ右ニ置る

廿七 青磁水指之事

一 青磁ハ昔ヨリ花入茶入ニ同前ニ名物ノ有ル道具也
その外の品多くハ其物ノ様也

廿八 古銅の水指之事

一 古き物の水指ハ真ノ台子ノ上ニ置て是も露ヲさす
かりそめにはあまりて見えにくし

廿九 真ノ手桶之事

一 真ノ手桶ハ台子ノ上ニ置て出す也 右の手ニ取て柄杓を置
さる也 柄杓ハ其ノ上ニ置て指出すへし
但シ手桶ハ下ニ置て出べし
一 手桶ノ蓋ハ取て置時前ニ置て茶碗を入て置べく
にて取りの上ニ置て切て其ノ上ニ置て其ノ後ニ置る事

蓋ノ上ニ[illegible]て歪ミ無ク[illegible]下ヨリ[illegible]して[illegible]下し[illegible]
右同前[illegible]織[illegible]自[illegible]方[illegible]上ヨリ[illegible]
たり[illegible]向[illegible]して右[illegible]後[illegible]して[illegible]
[illegible]逢[illegible]行[illegible]時[illegible]
とや

第十 [illegible]事

一 [illegible]ハ真ノ事[illegible]日も前ヨリ捻て[illegible]
[illegible]のさび[illegible]出[illegible]用[illegible]捻て
[illegible]金[illegible]て[illegible]
[illegible]前[illegible]時[illegible]
[illegible]ハ[illegible]も下[illegible]て[illegible]
[illegible]れて[illegible]して出[illegible]風[illegible]
[illegible]一[illegible]

一 [illegible]ハ二寸[illegible]て[illegible]中[illegible]
[illegible]て[illegible]し[illegible]前[illegible]右[illegible]

一 つる[illegible]風[illegible]方[illegible]
[illegible]上[illegible]
裏[illegible]上[illegible]して[illegible]
[illegible]して[illegible]時[illegible]捻[illegible]
上[illegible]して[illegible]ハ[illegible]の方[illegible]二[illegible]て[illegible]
されば[illegible]や

第十一 抱捻之事

一 [illegible]捻[illegible]腹[illegible]気[illegible]
[illegible]捻[illegible]
[illegible]の[illegible]や真[illegible]事[illegible]一[illegible]

第十二 芋頭之事

一 芋[illegible]事[illegible]世[illegible]の[illegible]

一 四十三　惣而水指の事

一 扇子長板長サ二尺四寸ニ水指古銅なと餝たる時ハ柄杓蓋置
なとの水指ハ茶入なとハ不置也、水指にハ柄杓蓋置なと餝也
唐物染付焼物の水指なとにハ茶入置事もあり
上段にハ茶入置ても置ぬも有、水指にもよるへし
水さし次第也、茶入置事ハ世にもしかるへし
水指次第にて無し

一 四十四　蓋置床ニ置付様之事

一 蓋置ハ床にハ不置事也、右方より左方ニ置て
置候ても置け、扨ハ右方の方ニ置候而も右方ニ
とも置へし、又ハ竹輪なとの方ニ置候而も
一 蓋置ハ此つま先にて右方ニ向て置へし
一 蓋なと右より太く置候て、蓋も竹を置

墨跡を置事也、花入次第也

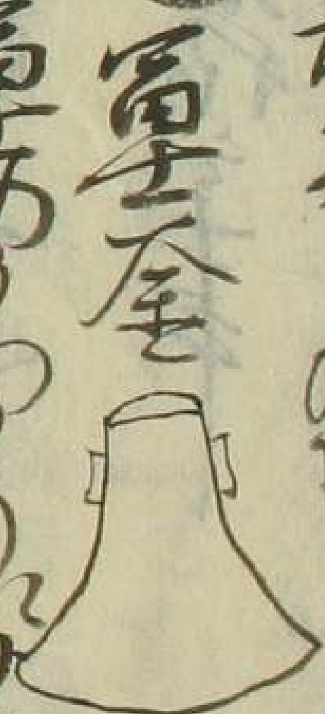
一 四十六　炭斗小口へ水を指添る子細之事

一 初座炭の時ハ料理前ニ炭をつき、後座の時ハ料理後茶過て
茶菓子の出候て後炭をつきて炭斗
出し、火の心持ニて炭をつき床ニ置候
不調法なる事也、茶入なと床ニ置候て
置ぬ事もあり、炭斗ニ加へて置事
一 床の掛物ニ花入置時、蓋の置様ニて湯を掛る子
の湯の座入たる時ハ茶入置て
蓋を置事ニ置もの也、其後置て蓋を置
置もの也、不及其の蓋を取て置へし、茶の蓋を置
一 真の炭斗ハ小口なとに蓋を置る事もあり
一 焼物の水指ハ蓋の上ニ蓋置て可置
茶碗ハ置て置て可也

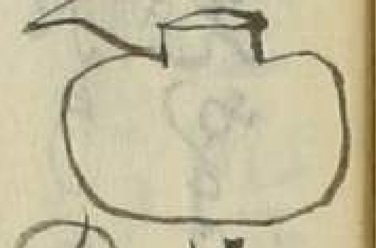
一 蓋置に二下に置て湯のみくさりて置の事を拵て さかい道に置れたる
三畳敷之時ハ出し方に付て数々風炉の前におくべし 拵方にて結ぶ時ハ
れいの如く持て右の膝にて しめて置は能く也 右様の事也
一 水指ハ華の下にをいて 置ハ利休之時 しめすもの也
其上に置たるハ 屋のつるより置て 茶ハ無用と云けり
動て水つぎ茶勝手 水指の後より 嫌ひ無用
一 故ある屋形より拵方して 是ハ好みによつて
之時ハ 亭主の外にて 茶を入て 勝手にて料理出す
かいしきの事も 風情ハ 亭主の外と 風情所
さきにて 後の事を 置て 茶を拵て 拵方のへし
一 床にまハし之時ハ 亭主の外にて拵て 掃除の事
第十六 茶碗のすみ向様の事
一 前の条書にても 其ハ亭主方へ向て拵る也と云也
方へ向て 尾寄の方へなすべき事也 ハ 床向すると云ハ 炉縁
とさしかける也 やり 拵りと云て 是ハ 手拵 能く見すべき
事也
第十七 茶入をかけ置やうの事
一 前の条に記す如く 床にして 後ハ料理の出る間 拵る事なれ
茶を入て おかれし 是ハ 茶入の 置様 後に 拵へ之れ
ひけ 置の右 絹ぞ 炉の角の方にて おきて 是をかけるに
右の方に 炉の方向の 炉角の方也
第十八 茶風炉表居様の事
一 前に書たる如く 茶碗をまはし 拵て 置て 亭主 拵る方へ 可申
亭主も方へ 向て 可動 拵方へ 拵て 方の子細ハ
床の亭主に 茶を拵て 出の事 こまかに 客ハ 茶を立て出すと
の事 拵ての事 能 後の亭主の 向の 方に 茶ある

紹鴎へ宗易より初座後座共に道具置合て宗易申さるゝ
所ハ是ハ前にも書ことく何にても蓋置にハ
竹の引切を用る事中興宗易之真ノ台子に竹輪は
用ル

　　釜につり開所表に有は不用事

一 高キハ真ノ釜を姿口ニ真ノ釜 
上出ル所持の釜にて上ニ高キハ此ちかひ目口かはし
こゝろ出てまわりにおやはちかわり炭を継て釜にて置
炭をもしつかにして掃ケもち羽箒をいたし
申事

一 姿口ノ釜ハ輪口ノ釜ハ紙をつけて掃はかせて
ゆん分七分とす長サ横広リ生けて釜ニ置ても入分す
出し炉の内をきさけ置きそ釜ニ置て寸分に
外もすそ上に置まわりのうちもわさつくろうさく
陳んして炭もかくをく文姿口にて釜を炭に置ずみ

此みるにて釜ハ掃はらひさき口へ姿口ニ此合
又真釜ニ釜と  のかまへ炉釜ニ頭釜すゆれてせいてうき口ハ四方姉を
上出て四寸六分ゆん分ゆ炉中をわまりやちやらすに云

一 姿口ノ釜ハ炭かけのうへなるかふたもそ一寸ゟ二寸まてゆるゆ置
掃のぬと釜ニかけてゆんさしやて釜の内すぐに置て炉を置る

一 やうき紙面より掃はらひの灰ゆらてゆるり分にすすみすく云
常の輪口ノ釜すへ紙しやて釜をかけて炭ふらと掃はらひの置
すえかたの七分程すくかに云時一寸はかりたるもさき
釜炭にかけるゆんて見紙紙にすべし

一 たけ口ハ大かた此釜ニてかすへてハ大書とゆんと置しく
ゆん分紙ゆくとて炭かわらすつるもとして掃ひ釜にかけて置
掃ひの底炭ゆうとをとゆ事とつるとゆへ掃ひのかさいるを
さうのゆうちゆ掃ひと釜ニ輪掃ひのかうりかけて置ハ掃ひの底
炭ぶちの間を七分もすえわりて掃ひあつかい云之

六十　囲炉裏ニて手を洗ふ事

一 囲炉裏ハ昔ハ主無くてなり中奥ハ十二川ヲ今ハ用ルや
かさ深さ二尺五寸也しかし同じ時ハ竈之内ハ陰陽吉と称ス
そこにすへ置也ハ火のくすへて焼の内を洗と四寸を吉也
ましのそで一寸入り之

一 炉縁之深さ一尺八寸継手のり之ゆへに一寸許り之川ハ高さん
とりわけの高さ五寸かと出りて上ハ出て揃ふの末思ふて楽なと
古き之て二川也上りいかに見るに之又新しき板ハ
さくらの白木吉

六十一　竈居据之事

一 竈の前ハ東ノ向上ミ方ノ方ニ一尺ニ揃へ有る之比一尺ニ尺之はいは紙也
出ゆる国より居ゑ前ニ成る青々に居方海とられ事世ハ成
多くし先ニヘハ炉も家ノ方一尺也

一 火燵の竈也ハ向出る台所戸ノ火燵之ハ足一ツ前ハ有る也之上うはのうち
三つ有る物ハ二つ足前ハ十尺居之先ずて焼有る其尺之
一 竈穂ハ事竈縁二尺之方だし之と見て山あれ
ねぢれ家ノ方一尺だし吉見よ焼之継竈ノ
中と炉ノ中との上へ合ハ古き之はけ其国と限らず高さ五尺
ハ尺ニ尺居之し

六十二　囲炉裏ニ灰入様之事

一 炉ノ灰ハ有る也ハ土ハ灰ニ合せて入れ也吸ふ炉ノ底ハ芋
此頃ハ入て竈をするゆゑ灰ハわけきは能く揃へて吉也
焼土下し竈すへて後藁ハ灰を吹てたいて能々一度ハ入て
おもしろく上ニ灰わけにおもき灰を入之

一 すミ四つ丸内一隅ニおきて吉

亨主
角二寸八分余程二寸も
ある四方三方六分

一 すミ大きなるハ炉中ニのりて悪しかすミ少なきか吉

一 天ノ[illegible]ハ[illegible]ハ無し
一 天から[illegible]六分七分二寸出る也
一 天の[illegible]上ケノ上ハ[illegible]天ノ火前[illegible]二寸[illegible]
一 [illegible]大ノ[illegible]無し

年十三 問[illegible]

一 問[illegible]十月朔日[illegible]月朔日[illegible]五月[illegible]日[illegible]
[illegible]

年十四 [illegible]大井より[illegible]

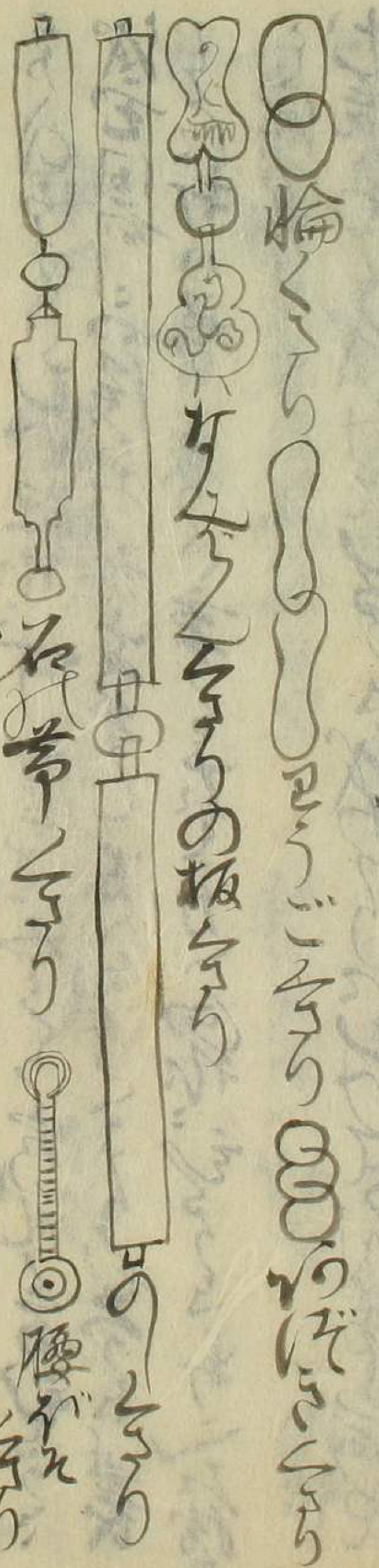
一 [illegible]

[illegible]
一 天井より[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]

一 第六　鑽茶釣之事

釜付る鎖ハ長さ一尺五寸也 小のさ五寸 長さハ釜の
火加減ニわげ 釜のかつへ継 此何寸あみのさしれに 自由すみ
かきしめ ほどきとも 太さもくさり付て 向くと
是れ掛て 見たり とも 釣り [illegible] のかく 何本を之
いろうきもおけのうち とて ふ

一 第七　鑽蕾鎖乃名之事



第七　鑽の心え とて いくし

一 炭すみ時灰も出しれ 炭を火を釜かきを付て 釜の湯の物相添て
右の手もやりて 之 掛て二三寸程上 釜をわげて向を
まいも鑽手 持も 自在之年を前ハ手の添く 釜を之間て
釜いろうへ 釜の鎖を常のく 相て あらそて 湯の 多編 ある
三間のにうすのうこ 鎖 掛をも 引く 又ハ 右の手をもた也
る事の前 掛之と 取て 左の手ハ 大かきに添て 持して左右
それからきめりこ 鎖をやりして 松の寸是は 何ある 付く
ゆび又ハ刀を手くきや

一 釜浦ノ上之釜て付る鎖を内ノ上 右のの 引て 持る鎖本之〻
また 是をけて 釜を を引しれて 此もいれ 釜て 拾てうせ 又かう
石てき 付ると 上へかけて 持 鉄の 火付 此 掛の 鎖は 持して 釜て
三月ありて まくなり

一 居炉組上を湯 釜かくる時て 之れ 太さの 鎖をもかくさけて 初て
まる時のとく 小のきまて上ゝて 釜を掛 中すも 釜て 掛るもの
釜ゝけて 付るを 右ニ 掛 右鎖をけ 付をみけて 太のさハ 急れ時ハ

生つ于衣の上にて結ぶ緒掛組は衣の上にて結ぶ也生絹〔?〕と
のせて衣の前紐にて衣の上にて結ひてたゝみ紙
織り出して後又こゝにおいてみきにかけて[illegible]
手に持てかけて結ぶ組掛ては[illegible]
てかけは結組をかけて肩に掛[illegible]長さは
結組に板を[illegible]大刀の結組を[illegible]
かくる所に不及

一 葉のはる時にこすり揚て[illegible]屋をかけて引上て
て結組を肩にかけて後に葉を廻し
一 葉結ひに[illegible]後又肩にかけて火打は結組に
た屋箱とてをて結組は手にかけて葉を[illegible]九寸五分

一 かきさ

卆八　自在之事

自在竹之惣名

竹上

卆九　自在の出所の事

一 昔は[illegible]時は[illegible]を持ちて衣をかけて[illegible]
[illegible]屋上にて直て屋根紙を出して常に[illegible]
[illegible]屋根に[illegible]有て御[illegible]時[illegible]
[illegible]の[illegible]て[illegible]
重て衣[illegible]時は時に[illegible]義之又彼自在[illegible]
[illegible]
[illegible]かゝる事[illegible]

六十　東山殿御所浦之事　慈照院殿と申す也

一 尊氏暦応元年より元禄十三年まで三百六十二年 義詮
義満 義持 義量 義教 義政将軍文安三年より世三十年
其後東山入御三十年其後義尚将軍天文二年 義政将軍之
時文安二年より元禄十三年まで二百五十年 東山入御也

元禄十三年ゟ天文二年ニ二百六十八年ニ成ル歳ゟ義政迄代
ト八十一義量義宣ノ時代ゟ七十八代ニハス

一 東山殿御茶事古今無類茶之湯之濫觴此時ゟ初ル義政公ノ事
濫觴委ハ此方別紙ニ在之

六十一 珠光濫觴之事

一 慈照院殿ゟ当世元禄十三年迄二百十七年也 珠光何歳
ニ而死 紹鴎何歳ニ而死 利休何歳ニ而死ス不知 此三師ノ
間百三十年なると云 考見る而珠光前也 慈照院殿ゟ
侍れにキワてれべし

一 珠光時代異説アリ 慈照院殿ゟ続キたる湯ゟ紹鴎前
まで紹鴎と続キたる也 以へ長命ニ而二十続キたる歳
珠光濫觴慈照院殿ゟ二百年ニ而六十年濫觴別紙ニ記之

六十二 紹鴎濫觴之事

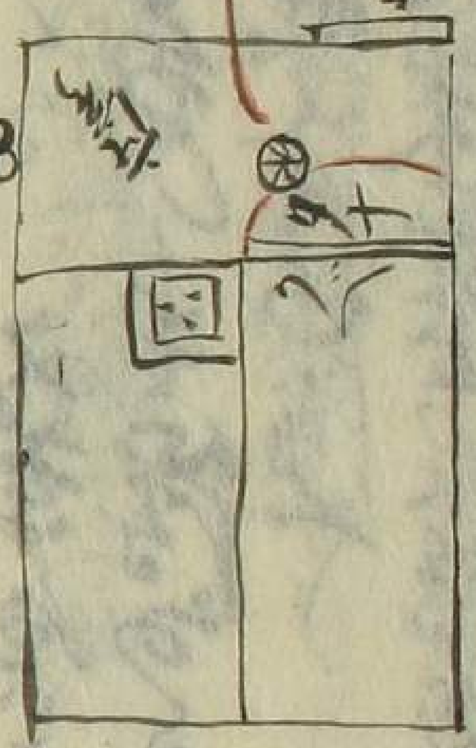
一 紹鴎ハ六角柱迄四畳半ニ初ル座敷ハ紹鴎ゟ張付ヲ以別紙ニ在之

六十三 宗易濫觴之事

一 数寄屋ハ侘てこそあれしかし囲ハ(結・諍)茶屋ハさびて相應也 此
三十六条ノ大根を始まりて作事よりて三所ノ本意ニ相叶
数寄屋ハ涼者の住家を家口しに見立て湯をびすれハけつかう
あるへきなり 囲ハ書院の合をもつ也の如くてこそ囲を離れ
なまじいは侘しきがすちちとひとさびしすきる甘わしいそうかは無
物ハ囲こびするさびある作事 わきまへ茶屋ハまぎれ
囲として置きたる 文茶屋こそは茶屋のやうてこび
まるうてなし十分ひとつて湯をする者すこしかいにくてこそは
なしどすする處施とかりの湯や

一 名宗易戒名利休居士紹鴎ゟ来ル 紹鴎が御奉此時ゟ
御茶ノ湯ノ侘は囲ゟ始ト成来ル 宗易構数寄屋ハ上下共ニ
楽来れ之 寺

一 大目ノ釣リ二重ニ置テ其ノ座敷ヲ初ル時ハ置ニ二ツ置テ其ノ違ニ置キ其ノ図左ニ



其ノ前客座ヨリ見テ道具ヲ見ヘ
ナレ渡ス二三尺上ニカケニテ
今下置ニギリテアゲテ道具
見ル時ハミツライニテ見ル時勝手口
見ヘ其ノ道具ヲ前ニ出ス

以テ炉縁ニ勝手ノ口ヘ向ケテ 8 此ノ所ヘツケタリ勝手ノ
見ル時中ノ柱ヘ向テツギタル時ハ成程置ノ縁ノ際[illegible]
此中柱ト云ヘ入ル事ハ世ニ不シテ一置ノ置ニ一寸程切テ勝手
中柱モ其ノ縁ニ置キ切ヘモ其ノ縁ニテ大目ノ三リ切ルニ又勝ト
ニテ今ハ是ハ書院ニ入ルや

一 中柱ナニサゲテ切タルニ置テ切トモナノト十八ハ半二置テ
サゲテ切タルトナフルガ本ノコトバニ同ニテ吉又半ニ置テアゲテ
切タルハ大目切ナル其ノ是ヲ本ノフル時ハ半二置ヲアゲテ切タル
炉ト唱ル力半ノ図之

一 二ミリアガリ昔ハ小グリリトモ云フ中クグリリツ大クグリリト唱フ
一 張付ハ[illegible]ニしたる利休や
一 宗易ト云フ置ニ葉ノ端ト宗易絵ノなめに置ニ[illegible]
[illegible]葉ノ端ニ[illegible]
置ノ[illegible]

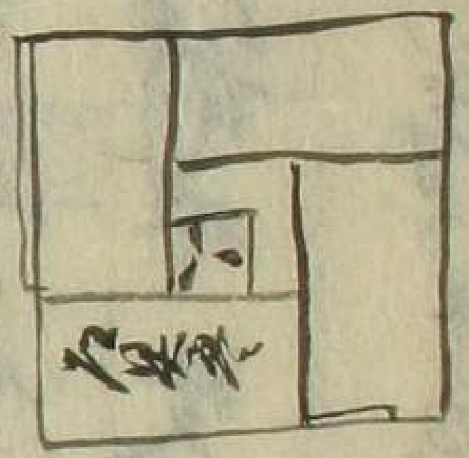
六十四 [illegible]織部[illegible]

一 宗易ト手子や座敷ニ置ル座敷此時ハ納ル方座床ニテ[illegible]口
上ノ方ニ[illegible]動座床ハ向ニテ座ハ床前上座や

六十六 [illegible]手置ニ右[illegible]

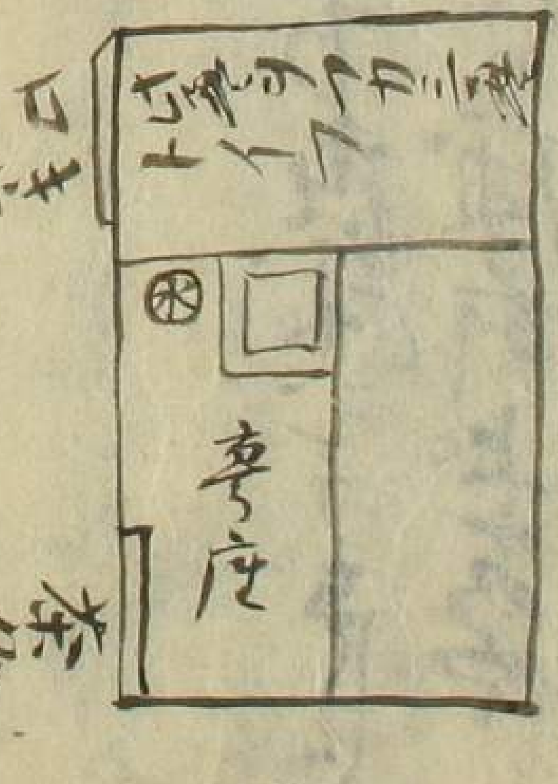
一 置ニ名ノ紙アリ座前ニ置テ客ノ手置テつこゴミ置テ[illegible]置テ
炉置ニ
一 置ノ[illegible]風炉ノ時ハ半置ニ入レテつこゴミ置テ[illegible]入テ[illegible]
つこゴミニタ三ノ前ニ[illegible]

一 六十六 四畳半座敷ハ四畳敷ナれとも
四畳敷ハ別紙ニ記之



一 六十七 妙ノ三畳敷ハ座敷也
妙ノ三畳敷坪別紙アリ 手前ハ向切ノ
ところや悪敷勝手より台目也

一 六十八 平三畳敷座敷也
平三畳敷ハ別紙上ニテ切すゞテ切手先切ニテ有[illegible]て窓
平十り別紙ニ座敷ノ置ニ合を記て



六十九 三畳ハ座敷也

七十 二畳半座敷也

一 前ノ宗易座敷の縁ニ半十二畳ハ何[illegible]以奥ニ記之

七十一 道安囲座敷之事

一 道安囲ハ左勝手ニテ炉やうしまうて柱立テ其勝手ハ[illegible]方へ参
床ハ太鼓張ニ而角すミニ立切テ此囲ニテ茶たつる蓋置
道安右ノ太鼓張の板屏ノ上ニ置て[illegible]之

一 此囲ニテ客初座後座ニ太鼓張ハ客方ノ方ヲアケテ勝手ノ方ニ参
[illegible]を外して 其太鼓張ハ客[illegible]
わ[illegible]の[illegible]て[illegible]太鼓[illegible] 客[illegible]て入れ之

七十二 宗貞囲座敷之事

一 此囲ハ道安囲ノ[illegible]
きうち柱ニ立テ太鼓張[illegible]
客道[illegible]
右囲[illegible]

七十二　小板並松之事

一 小板初り組踊[illegible]タクノ三ツとてハ者やかて[illegible]小板ヲ出て[illegible]
[illegible]ノ真中すへて周り[illegible]組踊盛んになり[illegible]小板たちり[illegible]
此時より道楽なりし[illegible]の内に[illegible]水揚[illegible]茶屋[illegible]
[illegible]水揚ハ[illegible]の内に[illegible]也

一 長板ヨリ一ツ二ツ切つるハ小板より[illegible]て[illegible]小板之

一 風姉[illegible]て[illegible]左[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]ヨリ風姉之
[illegible]前後ハ曲板[illegible]風[illegible]の[illegible]中ヨリ風姉
中す[illegible]守ノ[illegible]て[illegible]

[illegible]十二目[illegible]是ホ[illegible]や

一 水さしハ[illegible]ノ[illegible]中ニ重前後ハ風[illegible]

一 床ノ手[illegible]三年ニ[illegible]て[illegible]て前[illegible]

[illegible]す板前[illegible]

一 小板前後[illegible]前[illegible]す[illegible]板[illegible]ノ方[illegible]板[illegible]八

[illegible]方前[illegible]

七十四　風姉釜すへ板之事

一 風姉釜[illegible]すへ[illegible]左[illegible]用[illegible]前[illegible]

一 小板[illegible]方[illegible]風[illegible]
[illegible]

一 風姉大方[illegible]て[illegible]方へ[illegible]
[illegible]前[illegible]ノ[illegible]ヨリ前ノ[illegible]風姉ノ[illegible]

一 大徳[illegible]前[illegible]の[illegible]前ノ方[illegible]
方[illegible]風姉ノ[illegible]すへ[illegible]

[illegible]す[illegible]て[illegible]

一 [illegible]ノ[illegible]ヨリ[illegible]や

一 前[illegible]ハ風姉の[illegible]す[illegible]ハ大徳の[illegible]
[illegible]大徳ト[illegible]風姉ト[illegible]
前[illegible]ト[illegible]べし[illegible]釜ノ[illegible]トノ

一　スキ八分ニ入
一　大徳前にハひしやく柄をすゆる事も心得すへき之
一　釜かけりする時ハ前ニむかしく柄ニすゆる事ハ月ニかける也
一　風炉ノ灰前ノ柄右ニ火ニ寄かけて右ニ置前ニわしく之
是を心得すへし
一　風炉ノ内ニ茶碗ナリ山て茶碗を同し同し柄アルハ無し
とこしなのいゆるとも又ハ長り又ハ心へて置
一　一つ二三つを取すへし
一　風炉ニ七つ心得すとも十ケ條も心得すへし可有し
七千入　風炉ノ内ノ事　并大徳組
一　風炉ノ内大徳入ハ下ニおいてよく押付て大徳を前ノ方へ寄
是を世間ニ大徳ノ前ニをせて前ノいふやうによくなす
春是は無右ニ大きに事之前ノ柄付て内ハ柄ニ置て
前ニ出て見て半一坪を七面く茶碗置也

其上ニ風炉ほうれハ出ニ来むかし但シ台子ノ時ハ
釜あて二三年台ニのりかね大徳ノ方ニ大徳の前ニ
前の上ニ汚て風炉のあけさは湯大徳の縁の下ニ
柄杓上ケさけは湯ニ出来る時ハ
心得すへし茶碗ハ前ニ下ニ置てよく遠れ長ニして
湯ニ置る極ハ早ク廻シ大徳の前ノ縁ニかけて右
一　蓋の置前にハ前後ニて置くを入ていけて前ニつけ
とりあて後ハ前ニつけ柄を置く方ニ入て今前の左
のぞく茶碗ニて大徳ノ風炉ノ角下ニ風前ニ敷極を左のぞく
よくして右ニ前後大きくと押付て前ニつけよ柄
是ハ前よりいふハ前ハのけて前ニつけ前ハ
から前りしてハきてをいおなれハ前ニつけて置
毎ノ大徳の内ニ風炉すゝの前ノ方を置くのあるにて
前ニ同し柄を渡し前ハ是にて候之

一風炉の四方はあらん限り風炉に添て飾る時は能花を梅て置べし
時に皆居ノ方へ向きてもよし其のまゝ置事は右
居ノ方とうつ口ゲニ置事有る也置て心得ニつ二つ三つも
ならぬおも也おまたせて居は前のさまのまへにも一方もゝ置べし
前に置も又そこの尻にも置也右座ノ角とり向一ニ番り
一真ハ扇子ノ風炉前一文字サ一方ニか置たに台子を添て飾り
かくる也風炉前利休居の中に置様する様に向すりわる風炉
一天目をしてよし此前申すわけ也但前ハ塀の中にて置べき也
一是はそて風炉の左へ置一風の居きは置事を置て申す也
まる世は前に流る風炉の上にある也まゝ
一初座は炭をすれば是はすくの炭也今も出れ中に置也して
後に置事をけすれは置いたてくいを取て前へ向け前九分
おもせてそ様くと中程の一風炉をとりて置事ふ成はせはさみ
乃前にとは宗ればして前ならいて入て風炉ほそり是のげ

前にうつしは右それに前の風炉の内置見ゆる様也此様ニ
しかみて一宗之事ともに風炉をさゝ候て風炉の向の縁を
それ之までおりし候てくだん也之

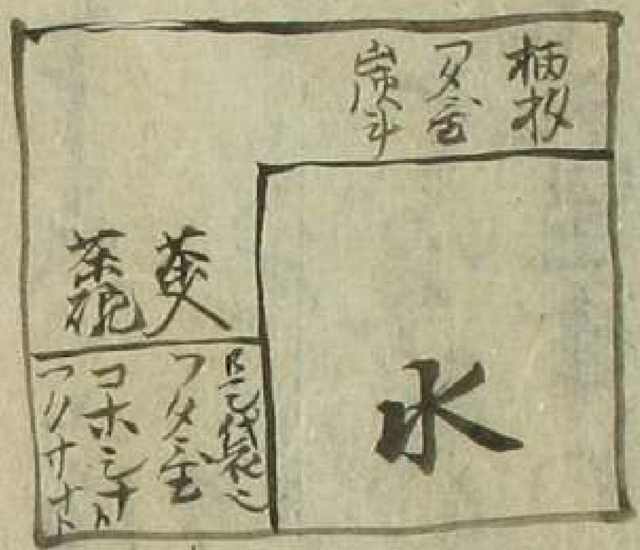
七十六　座敷にて其も風炉なくて置て居る事

一引出ニハ本置ルゝ事時ノ引出ニ置ハ置中ニ添ルるもの也さ候へ
候ほど此の仕様能風之後に置候時を二度引出ニ置て風炉置之
てよし又道幸ある時も置きれ幸ノ内に水さし持出用れに風炉
常に此所おもはな幸のさし用かるれて水さし添て置之
道幸の時ハ風炉くを幸中にすへて是をもち道幸ノ方に
向て置べし之

七十七　台子長板居前置大子大壱置居事

一中央二つアリ唐物なとにおりて利休の指すくて中央に
袋棚ニ二つアリ利休ハ常にあつき組緒袋棚へたて通ぜし

一 皆具まで切ノ座敷之の事ニ々釜子ハ五ツ一ツ又ハ二ツ長ル向のさき
守字子是から切まで三ノ時ハ遍炉ニ釜子ノ時ハ二戸ノ三戸中よ
又五ハ五ツ一ツ又ハ之座中門ハ二間組釜座ル所ハかさり中ニ[illegible]
一 織部貝選れやれハ座釜子の下と物と生れハ結とに之何座中へハ
 ミ戸川所座釜子の座御にて書をそれから[illegible]人を立座
 [illegible]之き[illegible]たい門[illegible]備ちんの座敷すると[illegible]門ハ事之
 ミ戸川ノ[illegible]



水指ハ上ノ棚ニ置て物ハ毛ニて出座事
手袋ノ内ハ物くさこ[illegible]物ハ毛ニ袋
ニ上棚ニ茶入茶碗又二重ノ上ハ長盆置壺置
小壺ハ[illegible]座ニ置く 天井に座斗ニ置く
[illegible]ノ場所[illegible]かへ[illegible]

七十八 釜ハ物ハ壺物ハ可有事
一 炉の時の事ニ長ハ座奥ハ内ニ置釜ハ[illegible]炉[illegible]

一 大炉ハ座釜ノ内ニ茶物ハ大小によりて出座ノ内から
 置て可有之
七十九 客座炉の物ハ座ハ茶[illegible]のへ
一 [illegible]釜ハ物ハ[illegible]の下にて物[illegible]物[illegible]柄
 杓[illegible]物[illegible]物ハ事之棚よ
 初[illegible]物[illegible]又[illegible]座[illegible]茶[illegible]時[illegible]
 [illegible]の[illegible]て[illegible]物[illegible]て釜
 [illegible]物[illegible]又[illegible]の[illegible]棚[illegible]前に
 [illegible]物[illegible]茶[illegible]入れ候
八十 大炉ハ物ハ[illegible]のへ
一 大炉物ハ[illegible]の内にて[illegible]時[illegible]
 [illegible]炉上[illegible]炉の方[illegible]の[illegible]
 [illegible]柄杓[illegible]時[illegible]の内にて炉ノ方下ニ[illegible]

一 上下して切りれ出て沈頃ノ角に金時も前下になりし金く
あるにて置花蓋金置し子細あるしかを大御とりけ無所之
一 柳ホかの時をたるは上下して飢一つのたとりら金ヵ茶をはる
時ならしくれ出て梅のこ付上をしてはお一つハ柄杓の柄の
かたしてさし後ちにはくれ出てさて子細ハ梅の方ある所に
ほけバ古かしもし出ほりらはてかつまと之
一 茶湯の時も金はさざいみ云とら蓋の時花生をる所は出
はなし

八十一 下の結び金之事

一 かの下手判にすへう能して下太なる所の月のかけ結ひを金
時よりも善きよしれと置しき手の子細之

八十二 夜学の結び金之事

一 唐の物は学問のすゑ結ひ給ふとわざる四方の節して用る係く
夜学よりも右のかれ並び三人のまてなどのかざらかあるまて
みるせいじ燈台とわりを大定居と云ふ比下 夜学の主ハ
茶湯に用る金は竹輪の蓋金置き不出や

八十三 竹輪の結び金之事

一 古ハかの行燈の本の結び金を茶の湯竹輪ハ組結ら
初は座く出れば御ふ前合用る古ハ竹輪のかた前にて今ハ古
の方にも用る草の茶の湯にも出へし結ひ中今ゆかさる故
ま文結ひし上なとらして物かあるも我色一寸六分にて結ひ
ころも一寸六分大きに

八十四 柄杓の柄の置様裏結ひら掛る図のごとし

一 四方をまはる結ひ
の打いる所に

其一つ分物二つにて
ハ大目
にして
してもき切
道具無をふつく入るれにも金や結ぶ
此初に入れて花の柄結ら二つにして又
結ぶて角ら二つ分ノ茶にあるはなるよ

一 釜ノ蓋開ケ候時ハ湯まはり候時分ハ立てから手にてあけ候へ
ヘ引付てかけ置候又切ハ湯へはなし候
又まへ置てもあけ置て湯を出して取申候釜の
湯よりあけ候に羽箒を出してかけ置時は炉の時ハ
かやうにさし湯をもいれ候てよく湯ハ湯の置候風炉の時もあけ
かやうに置候て其後手にて湯の細に取り候の時は湯をさしき取
也上に入れ候て湯をもはらし候又風炉の時ハ湯を吹き
取ぬきてよく湯をさし候入れ候て後其手を取申し
炉ハ風炉も同前也

八十五 柄杓を風炉釜に置様の事

一 柄杓風炉の釜にかけて置ハ釜の縁に柄杓をかけて置事
心得なるが見よく候へ柄杓にはさし候て釜の縁にのせて
草にハ切り置候又三ノ茶湯にかけ置候て行の草にかけ
て湯をも初ハ斗のへ置て茶巾入れ後湯をさし候後

釜に柄杓を置候時ハ切にかけて置候て茶筅をすゝぎてもかけ申候

八十六 柄杓を棚にかけ置様の事 風炉より棚の通りの事

一 棚に置ハ風炉の時ハ柄杓の柄を右の方へ出しておき候 後に釜の蓋の時ハ
かやうにあまりて置候又柄杓をもちて前に置候て蓋置ハ置候
先に置候又茶筅の置やうをも風炉の時その内に入れて
置ハおもふにしたがつて置候へ茶を置候てよく湯を
違いに置候ての時に置候て茶碗をも置候て茶の
右の方に棚の柄杓を置候て置申也

八十七 柄杓行儀両様を両方の手に持て出る事

柄杓を左の手に持ちて右にはさみ湯の釜の合に持
二つにて持くだりし持て蓋をあけて茶に合ハ
を下に置てあけてすて候て置候て其手に持
して柄杓を置

懸ル掛物並ヘ懸ル時ハ左ノ方ヨリ段々ニ掛並ヘテ右ノ
方ヲ次第ニ上座ニ成ル前ノ座ニテ大方ノ
掛ル所ハ左ノ方ニ掛テ右ニ至テ右ノ方ヲ上座ニ掛テ其ノ
常ノ前ニ掛物ハ掛物本ノ座ニ懸ル之ニ而
上ニ成テ能ク候

一 八十八 掛物釘の打様之事
一 床ノ真中ニ釘ヲ打ツ事ハ地ヲ見テ床ノ高サヲ計リテ
掛物ノ長サヲ見テ寸ヲ定メ掛物ノ横ヲ計リテ掛物ノ下ノ
床ノ間ヨリ打ツ時ハ掛物ノ長サニ合セテ
二寸程下ケテ打テ其ノ床ノ高サニ依リ
又ハ床ノ高サニ依リ打ツヘシ 茶入ノ袋
モ此竹ニ釘ヘシ

一 茶入の袋ハ他流ニハ輪ノ方尾ノ方引様之ニテ結ビ色ハ袋
ニ依テ替ル事モ有之ニ依テ輪ノ方ヲ上ニ成ス

一 八十九 掛物ヲ風帯の角ニ付ケテ掛ル
風帯ニ付テ手ニ持テ釘ニ掛ル時ハ掛物ヲ上ニシテ下ヨリ
巻キ立テ掛ル故ニ掛物ノ巻キ立テ掛ケ様ヲ
考ヘシ

一 九十 掛物ヲ風帯の紐ニ掛ケテ掛ル 於風帯
一 掛物ノ紐ヲ引掛ケテ釘ニ掛ケル時ハ
先ツ風帯ノ紐ヲ前ノ方ヘ
ニ付ケテ掛ル事ハ前ノ通リ
又ハ掛物ノ紐ヲ掛ケテモ可然之

一 九十一 掛物ヲ揚ル上ニ掛ル

一 水指の上におきかへて置合の所ニ建水をおく方炉の方へ寄る

九十二 柄杓持様之事

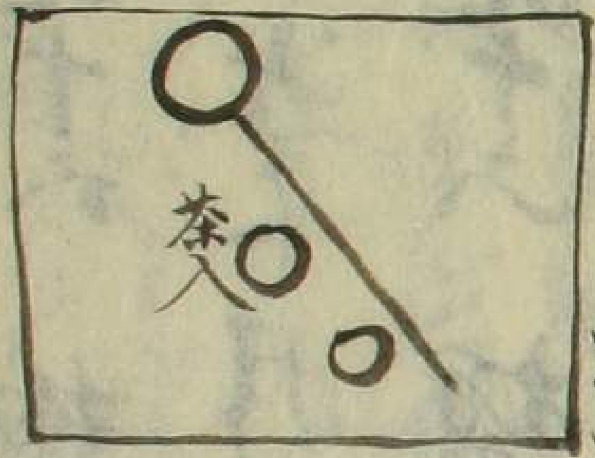
一 柄杓ハ柄杓の下三ッ指ゆびをのべわたし柄の内ニかまへる事也 其心ハ口ハ指ニあけたるものなりとて人指ゆびハおさへて
かまへて指ハ柄ニかけるもの也

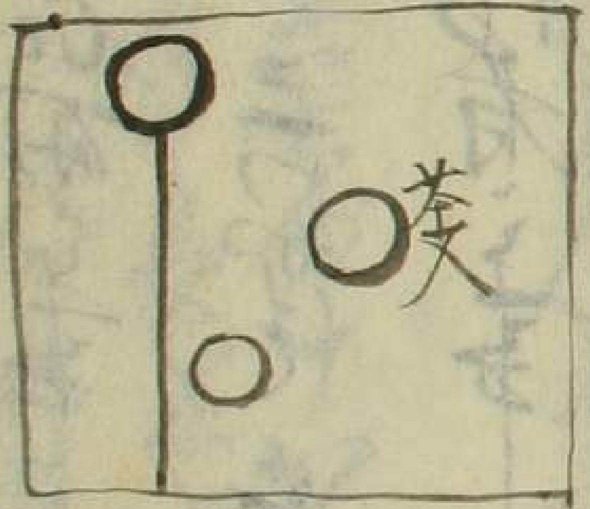
一 炉の釜ニ湯をくむ時ハ唯取テ乳通りまでたゞくみて持て左の手ニて釜のふた
たゞして湯をくむ也 行ハ柄杓唯おきてかへと釜の縁ニかけさせて釜のふた
をして湯をくむ也 草ハ唯おきて向ふニおかへてのちに湯をくむ 人指ゆびと
たゞく柄の通りにてさそてあれども也 おきの上ニ置也
とそ見合すべき事 真の台ニかけ柄杓 水さし其ニ向
くむ也 真ハ柄杓のうちに乳通りまで取るも也 行ハ唯とりて
水さし此内ニ釜ニかけさせて是をおきて くむ 草ハ唯とりて釜の
縁ニかけさせて取かゝめて 水指ニ入りて文字を書てかへ 冷汲みばかり此底ニさして柄杓ハ置

水さし持ちて指をたゞくにおきてたゞくゆびにて柄ハ右の手に取て 持ちかへて柄
柄杓をおくれハ釜の縁ニおきて 或ハ釜の口ニ置かへ時ハ柄杓を
せずかへす也

九十三 柄杓のおれとかけ事をきらふ事

一 柄杓ハ釜ハ茶碗ハ釜の前上ニかへおきて〔illegible〕
茶碗ハ未だ持てふたを取て釜の〔illegible〕
或前ニ置柄杓ハ持ちて釜ニかけて唯釜の前茶碗来り
水さし〔illegible〕釜ハ行と云也





九十四 柄杓置合ハ台子建水の内ニ置合ハ居合也

是ハ台子にて也

九十五 掛花入之事

一 かざり 月形 三つかど 掛 ふしあさ とあ

九十六 掛物着之事

一 ゑびすとり 一河所 養泉坊 十三節 今ハ宗言

九十七 長盆之事

一 極真台子長盆にハ茶碗ハ台子ノ天井に水指ハ台子ニ置長盆

一 天井よりかざりして水指の前にかざりして台子ノ同前ニ水指居

かざりて置かれ候て長盆置く也 但置くさはりをとかして中ニ在ノ

方へ右ノ真中三つ置きて両置かきすを右ノ方置きをすくとと

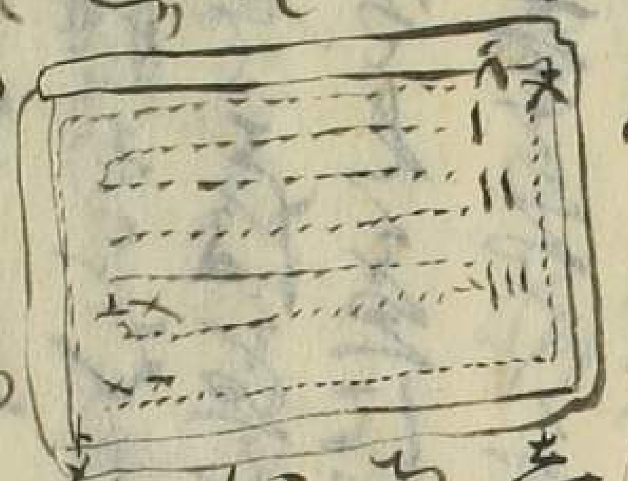
置きまハして右ノ横から置きてとあ又右ノ横から置き出し

まハし置き角と置き渡して前ノ置きを置きてとあ但前ニ在ノ

角を置きいとも也茶入を置きて茶入長盆にかれて置りに置て又長盆

置く事 右ニ同茶入置いて長盆ハ長台子同前盆ニ置て茶を入ニ吹きし

て置候 ニ出て客方へ時長盆にて客へ出し候時置



長盆 置けて客方へ出して置をくらと

祖出して 置の置きを掛て客盆にハきく盆にハ置をとり

盆の四角へ出す はぎりよりて両ノ角ハ右ノ手の角へ右手

茶そ日出つ まハして客ノ右ノ方茶入右ノ方ニ茶入を置

手けて掛り出して置く置て茶せんを置いて紙入れハ其後

とも置出し置けて入れて置れく天井ハ上ニ置

九十八 台子盆四方盆之事 茶入宗易台子古今ハ四方盆 古文字ハ小台盆なり

一 台子盆なし後台子ハ台子盆ハ小つかみ盆にて置かハ四方盆

のすゝ置け茶入の置た置つかへ置きて出して置のからと

みかた台子盆古

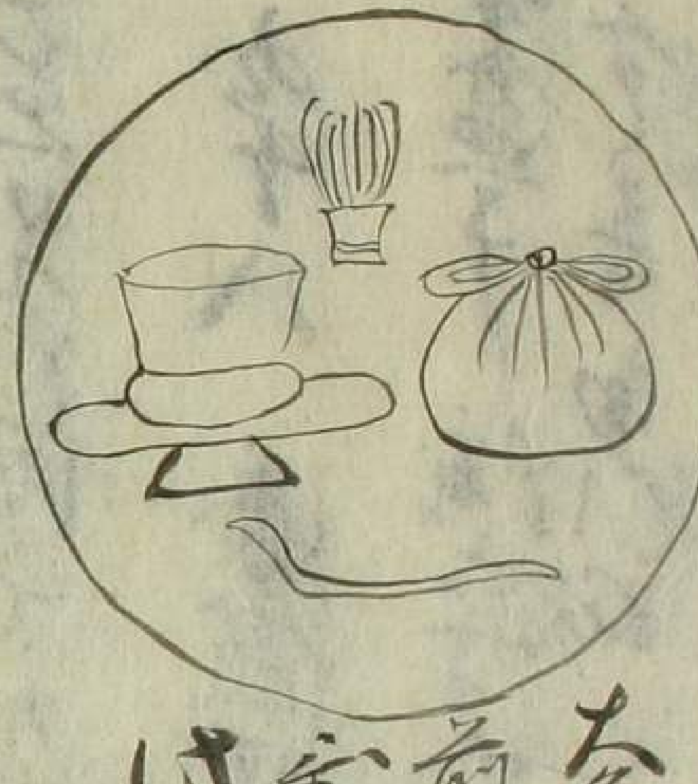
一 四方盆ニ置もとすと台子とも四斗かくつき額盆にのせ置く置くさ

ちれハ四方盆へ置く事なし長盆をちいさく置くハ得なり

一 四方盆ハかさつハ茶を入て茶入れたる時に台盆をもちますゝ置

一 もあかはくなつめ棚に置や茶杓をそへて置よし 又初盆
を飾く時もこゝすせて置てと同前也其より時ハ

午也　大台子盆ニ居たる事



大台子盆乱置也但右出つくれ茶入台目の茶杓
前茶入て茶わん肩ノ内おき也乱
置して扉ノ二井の上に長盆に置之
ばさまりハ扉子方にかざる時大台子盆置之

一 お用ハ天井か長盆にかざりて茶杓ハ添て置也
此方の羽におきても茶せんも置て後ちやせんを取て二肩ノ内置
也て後盆をあさしの前へ長盆のごとく出る
二れ居也盆に同但心得ちやせんをとへて三肩へ合見
台茶入を取えにおくりて細にちやせんにおいて茶也
その[illegible]之又茶杓を三肩三肩ノ前ニ置て三肩ニ

茶杓置ては後茶せん三肩へ入る時茶杓ニ添て[illegible]
日渡とかすはれ[illegible]茶杓ハ羽に置也大台子盆
是也

一 大台子盆ハ大人一尺一寸大抵寸法也
[illegible]ハ寸法大小右之大抵の心得也

百　[illegible]盆之[illegible]の事

一 長盆。大台子盆。[illegible]盆。四方盆。内長盆二つ袋茶入台子極真
但長盆ニ小つハ茶入茶碗右乗茶碗ハ[illegible]
かくしれ盆出つかれの[illegible]茶杓を置也

一 盆[illegible]
乃時ハ[illegible]前[illegible]角[illegible]
用[illegible]右勝手の時ハ[illegible]出すや

百一　唐物の茶入盆[illegible]時[illegible]事

一唐物茶入といふや出して時ハ唐物盆にて此盆なく候ハヽ右茶入に
かりそめ(?)に川(?)にて仕付けハ茶せんをまへに出し置其上に
右目の前の時ハ茶わんの前にわきにのせわかつ方にかくし
おき[illegible]茶わんの茶碗出しハさこにおかれたる也さへ
置て

一ちやはりまてとりて茶入唐物を以文ハ袋に入唐物など
茶入ハ小壺并茶入をもおかれて茶はりまへにおきて
了

百二 盆なしの時茶入の置様の事

一かくのことく其の足を以茶入をかけ置に候はゝ三つ手前にて
茶せんを茶わんにいれて後から小板の上に
とかく前にのせて置之右の流の事ハ御意次第也
縁ハ茶入の茶わんの右の方へ置てよし其外にハ茶入を取て
方上に置て其うへに茶や出し右の前ハ置てもよしとて置

一但盆の時ハ盆の上にのけて置
一棚の時ハ前に置て茶せんの方へかけて置也茶入をまへに
前にものゝ上にのけて置てよし

百三 茶入の置やうの事

一茶杓の時ハ盆の上茶入のかたの方に置但長盆にハ出つくし盆の
まへにしき二つ折二つのまへにて出つくしの茶碗二つ折に置小盆
にハ小盆を盆のかたの方へ三つ手に置て又盆の上茶入の上に
のせて置其茶杓を添置ものをかけてものゝひとつのうへに
茶杓をものゝ足の上にのせて茶入のへて茶杓につけ
手前を三つに置やうにものゝひとつにまへておく也茶わんや

一建水をは茶入の上に置かけの手前の茶わんの前にて
前の方へよくに置て茶ハ後にそへ[illegible]置也
茶わんの三年に置し之を茶わんに添て置のせて
置て右の方へよせて置也茶入を置て茶わんは

方丈の立さしたる時ハ上に置よし 始ハ茶けいを立にして
茶杓ハ右ノ方ニ置へし
一 台天目の時ハ置合ノ方ハ柄杓立てゝ置て
後ニ前の方の縁ニ置りよし
一 茶杓拭ニ取ルこは事 其ハ拭さにもまして茶杓を
押へにうちかけて其相引前ノ方ハ右ノ指ニ柄杓を
しても其まゝて右のゆびにさゝ様ニ拭ひて又拭さ
わけて茶杓うちかけても其ハ後ニ出して取て盆ニ置 茶入ニ
始ニ後置も右ノこと 行草ハ左ノ手にもちて 右は
柳ニ附ケ申候へハ 一度ニ拭之也 又作茶
ふくさ入て其ニ盆ニ置之 其上の様ニ置事ハ 柄杓あしらい
置きてけ 吉拭ニ置とハ 茶杓拭いて置さきよし
先湯ノ後天目さへ拭ひ候ハヽ 右ハ一度に拭いてよし
一 右同 茶筅とる時水こほし置前ニ事
一 真ノ座敷にハ 柄杓立 前釜右脇ニ置時ハ右ニ方ニ向テ置

一 四方盆手前右ノ目をかけて 其ハ何程も立て好として すへし
出しも拭て置へし
一 百六 茶杓指様之事
茶杓を取出しとて茶入茶杓右ハ上にて茶杓を取出し
後ハ中に指して拭ひとて 少茶角に置時 ゆびにも たひさ
壁にもすへ 拭に置て又取出して茶杓のとにあて置て盆よ
拭て茶杓さして又後ニ指入るゝ時 右ハ後へ蓋入れ
一 こい茶立る時に天目茶碗をふちにかけて置て茶入の蓋を
茶杓ニ立て天目ノ時ハ又拭ひにかけて拭さにほさ立て茶
杓を拭ひて置事をすへし 時ニして置くて置く盆ノ角
置くもよし
一 百三 茶杓を置こと 常ハ茶碗に立て置とも すへし
たいは置りも同前
一 大天目の台ハ置の時ハ 柄杓立て 後天目の台ノ時置りし時ハ

とけをもけて包や

百七　茶杓取合之時分之事 付客衆之事

一 昔ハさいの茶ノ時ハ前日ヤヽはらやの後ら茶筅て仕立て
ぬぐふ時前日やし 当代ハこいちや仕立て取り候ニさして
釜蓋ぬくと水さし取さしても其あて前日を茶入袋茶杓とを
むすひし

一 茶杓出スハとめの方客へむけて置へし十文字ニ取て置

百八　茶杓名前之事

一 かいえ取さきよりふい 此の花ちる時とて ふくしめとんへい
とりをうふ取り 杓前をちくとんと ふとわとふちくれ来ノ
とわをつふかへ かつて色め候も ちいひるしいちや
ぶ茶くさけ茶杓わさん

百九　茶杓作者之事

一 守徳 紹鴎 宗易 其外 南行ひつし 茶杓作之者ハ
引しや作り茶やも作り付ものしく茶杓作りと云者も南行ハ

一 利休茶杓作りなり

百十　茶筅之置様之事

一 茶筅ハ其前日ニ入て一茶杓ハ前日茶巾茶碗ニ入茶杓之
てまへ取時もれ候事有之る 薄茶ハ小取りまはし可然茶筅
置ニ月ハやも茶碗ニ入て入茶碗ニ茶杓茶筅置て茶入ハ
常ハ茶碗ニ入ひしけて茶筅右ニ見ニ置て右寄る
畳ニあかりにたノ方畳の前ニ茶碗けて置て長無用
右ノ置く茶入茶碗ニ置 右ハ少さの前ニ置さ
とくし置て茶とうかへし候や

一 茶筅仕立く事代くく茶筅置て三色たこ茶筅ハ一茶筅茶筅
置り相もれ之但茶杓ノ時ハ右ノ方ニ茶碗ノ横ニ右ニ茶杓之置き置之

百十一　茶筅置所之事

一 右ハ唐物茶入之茶入し出て以下条ノ所ニ記之唐物茶入の
時ハ茶筅ハ少し置くれも但茶壺ハ大目茶の時横
其んて置りもとん置之時ノ時と同風炉ノ時ハ風炉ノ前ニ
置茶巾て同時ニ三ツ清炉ノ時ハれノ方ニ取りのさんに

なつめと
一 茶入和物ニ唐物有之といふハ茶入ともにおき添て置之又和物
にても浄領又ハ手洞ありしもの扱ハ同前時ハ右唐物
之時ハおくにかけ置次第同前之
一 碗ニハ茶碗かざりとて水指ノ上ニ茶入をかけた濃茶之時茶碗
置もの申し今茶入なとの時もおもしろくなし
百十二 茶碗名物とも
一 かざり扱ニ拘つゝり候ひ
百十三 茶碗作者とも
一 名物茶杓茶巾を添て扱し茶碗に作者成
百十四 茶巾とも
前の方へかしと表をむけて
一 名物茶巾ハ七寸程ニ扱ハ中ニても布を扱上
一 七寸ほどてハ扱かね候て其外ニ寸の合に折り
布ハ此の手拭を広せばかなを入扱て七寸る
茶川扱ふの内をあひていて茶川の
此上ハ三つくたくハ布の扱す而
一 茶巾上々茶巾を長ク二つに折文二つに折
二つに折て三つに折て右の方を上下に折て茶巾
を入れて置時右の方をあけてよし
上下に十九ばかり二つにて五月の内寸の時五月の内にてハ折るも
あけてかけて五月の内ニ寸合して
と扱く茶巾を押つけて扱く
とりの入て茶巾を入置入候茶巾
それ置時ハ右の方又置時ハ左の方とも茶入て置
置之ハ情々しく而茶具
一 三之茶巾とは茶巾扱く茶巾
一 扱くさの続有りて茶巾を置て置分にて仕立
仕こいろや時扱くさのよくは舎せ之も時又ハ酒時又ハ
湯又ハ茶葉ナノ時ニ茶入るも著ヤ家ノ茶により如何有之

一 壺かざり茶巾にハ葉の時ぬくさあまなくらせ茶をかざり
茶巾にし水はかけてたゝてつゝおきて水あとを見せ候
こも紙巾より拭ひてもよき又ハ葉をかざり茶巾をかくす
茶碗くさめ吉きよく葉を入ハ候時計や

一 ぬくさ候はそれより時分にてしるしとこゝ寺納なし
百十五 台天目之時茶を入る次第の事

一 長盆に二つ袋掛置之ときハ台天目長盆よりこゝに台天
目ハ長盆をも草之台盆乳之立て行草之時ハ台
天目行草之事ニ二つ袋まるとても行草之

一 台天目之台拭之台時ハ天目湯を茶巾をかけて台を拭て
拭台ぬくひて台次ハ台を之事井に茶巾をかり前より
二つ上げ置て天目は湯をかし仕廻茶巾を茶巾よりの
茶碗置を入て後天目にかえし上せて台を之蓋を拭て
置て向天目をおろし台の上て蓋をし茶をいさと袖の
こしく天目湯すくうして茶をかけて袖さこの時台ぬくさ

蓋上げ置て天目ぬぐひて後台を拭ふて天目を台
にのせて置て後常

一 百十六 茶入台天目見え候時の事

一 長盆に小茶入台天目小盆に小茶入台天目たて時に
茶巾も茶入天目もとめて後釜に水さして
釜の蓋をあけ水さし北側にかけても台を蓋
上げ時 不審之事

一 長盆の上台において我前へ置て台天目を拭して我前
台をなく置て何とも長盆の左脇に拭ひてかえし
長盆にさし出し置て天目台を拭ひて台ハ次人へ
台に置て天目湯を汲んで次ハ出候茶碗ぬくさ
拭ひて何となくそれを上置台に拭ひてぬくさ候ハ上に置て
長盆ハ上に置くにかよせて置て何とも拭ひて
次方へ置て其上に何とも拭ひて次人へ渡しぬくさ
のれハ何とも拭ひて置て候ハぬくさこの上に

其後天目蔵ゟ取て浄見して洗出し其後長盆ニ見
て渡ハ出ス
一 下座ニ合天目一味ゟ上ハ重ね置ひ亭主と洗ひ出し候て重
天目ニ居一味ゟ残前ニ重て天目ハのせて出シ上座ハ出シ
重長盆一味ゟ残前ニ重ね置てひ出しのせて後ニ蔵天
目ゟのせ亭主出し[illegible]候て出し置て仕亭
客ハ出ス時ハ茶入亭主ノ台天目ハ客ノ方ニ置也又客亭主へ
渡ス時ハ取りて茶入亭主ノ台天目亭主ノ方ニ置て出ス也
時亭主ゟ長盆ニ付て取置き候也時ハ
道具浄見ノ無礼也
一 長盆ニも又ハ小盆茶入ノ時ニ天目茶壺ノ茶巾
ニ置て出す時茶巾重ね出時ハ蔵天目下ゟ置ノ時ハ
天目ゟねいて茶巾何もさし時蔵天目下ゟ見て
し亭主て茶巾と茶杓とれ候て上ハ重て蔵天目ゟ
出ス茶入ト盆ト下ニ後ニ加て無ねさ天目ノよ無ねさ天目後と

下ゟ其時亭主ハ蔵天目を取合の方へのけて小盆ニ
取て客出ス長盆ニ時ハ蔵天目ゟ取て出ス時ハ横重て
茶入長盆ニ茶巾ニ出して客へ出ス
百十七 茶入蔵天目下ゟ時亭主出し候仕様
一 長盆ニ置ニすゝみ組ニとして茶入前ニ盆角
と角と揃而て置也りニ置し客ノ前ニ出して又盆
をも添くとして重て又小盆ニ茶入台天目ノ時ニも
蔵天目ゟ出して客ニ天目ノ前ニて取りて出し重ね
小盆ノ茶入ニ盆とも出して長盆ニのせく盆ト角と
角と揃置て順也て蔵して蔵天目ノ上座ニ客ニ之
方ハ小盆客ニ出ス方ハ蔵天目ト重ね
一 亭主ハ右ノ目ノ角ノ内ニ茶巾ニ置て袋ニ入て仕舞ニ
仕舞して亭主ニ仕舞[illegible]
取て入れ客ニ長盆ニ取寄て[illegible]て出して置く

ふくさハ二ツ折しの内へ入ル時二ツ折し而帛ハ右ニ二ツ折して
寄せ少して手前へ寄ルに手ぬくひ蓋子の前へ入れて置が
よく蓋子ノ天井ヘおくなり
一 二ツ折し見開すみ四ツ折ハ重ね二ツ折し入れ時始は重ね置て
置ハ始ハ重ね置ハ出して置ハ手前ニ置ハ右ニ置て重ね置ハ
すくて二ツ折しの内へ入て置に挟ノすこし手前ニ置ニ置
合せる也ハ宜敷蓋ノ開少ツツ天井ニ置ハ少すつ
を順ニ蓋子前へ出して浮入して宜敷右に置て置
出る時袱紗で座へ揃て挟み置之
一 三ツニ開ノ時ハ蓋ノ開ハ茶碗金ニ入れ時蓋又
開て挟み入テ出置ニ少ツツ蓋子ノ天井ニ上ル也
故蓋子又ハ蓋子にかけて其後置ハ出置蓋ノ開ノ
時に持ノ時ハ茶碗金置ニ右ノ方拘りノ捕り右ニ
重ね蓋置は長く置て出る時ハ茶碗金左ノ方ニ二ツ折し然れは
取渡して出る時より茶巾ニて出る時も右ニ置に二ツ折し

然れ共紙ニ包して茶碗出す也之
一 百十八 茶入拝見ノ事 茶入蓋ノ開様ハ後ニも記之
百十九 蓋ノ開様ニて茶杓拝見ノ事
一 蓋ノ開様ハ手ノ右ニ出シても宜しく右ノ手ニて蓋ノ摘を摘
たるハ大指ニ開ノ摘ニ人指中指を添へ持ちて開ニおき
三ツノ中ひらき蓋の上へ添へて拝見後ニて出シ時ハ客
たにたりをのせくれ拝ても右客へ入れ時右ニ置て右上にて
次ノ客方へよせて出て拝見し客へ一礼して又置ニて蓋
をへて右ニて蓋ノ摘を取ていさゝかも一口のるをて蓋は
右ニ置て三ツ開ニて蓋拝見て置て蓋を添へて次へまわし
次ノ人ハ蓋を二ツ持て蓋ノ下ニ置て三ツ開ニ拝て客へ
一 蓋ハ蓋を二ツ拝て一口てのこ個に寄せて二ツ湯さゝをとて蓋を
上ニ置ニ蓋を二ツ置て蓋ノ下ニ置て三ツ開ニ拝て客
て蓋を置へて次ノ人次ノ人ニ開ニ入れて二ツ取りて客へ

座ニ出入ニしへ返し又ハ花上分れまいらせ上客ハ座
しまいこまて座ニ入て天目を捨て其て深く
天目を座の先ニ置て次ノ人ニも左こくして座ハ
天目ヲ人ニ手ニ取てや

百廿　天目茶碗ニ湯ヲ入事　付茶せんすゝき様ノ事

一 天目ハすゝき湯茶せんすゝきも湯ニ水ハ入ニ茶碗を
ゆすき捨られて湯と水とをあはせて茶碗すゝき
茶碗ニ水ヲ入ル時ハ湯ヲ入て すゝきて後茶せん
すゝぎあらひと入て茶せんすゝき

百廿一　こき茶ニ湯と水と入合申事

一 水と水と合て亭主のこゝろへ茶ノ心にかなひ亭主の心得せられ
よ湯人もなし

百廿二　湯の出し加減の事　付亭主湯を出して後

一 亭主名水の出し加減時ニ事之名水をは紹鴎も此式の
時ニ御茶も名水を好め茶の湯の名水をへ名水とは茶碗
亭主て湯を入て出る時茶を入て茶碗ニすゝきて湯
下りて茶ノ御ため加減しても云ハよし其の御ため加減
也又水を加減之ハ湯ノ気ニさらす亭主も又心へよ
ぬるくなりて湯を入て茶碗ニ湯をすてゝ茶碗
をよくねりて廿杓程入て湯を入て茶碗ニ水をかへ
出入客ニいろやかにくはへ候と云て湯をすこし茶せん
ぬぐひとねの湯のあつさ加減を御心へやうにしてほしく
されこ

百廿三　茶立仕廻湯上ハ亭主茶入座の天目の蓋の加減ニ
す

一 亭主座前に仕廻して茶入蓋ハ亭主客の道具を
すゝて亭主湯の点合あわせニ湯を入て手を取目を見る也

蓋ヲ前ニ上テカ右ニ出テ置ヘシ 茶入天目両色ニ
ケ條ノ内ニ色ニ書ニ

百廿四 一柄杓立様ふしの事

一 天目ハ茶ヲ入今おそくなる程ニ湯を入今て立て又湯を加へて
やりて出ス三ヶ度ちなる時ハ茶筅を左ノ手ニ持て湯ヲ
入ル又行草ニハ茶筅を天目ニ添ケて並置て湯ヲ
かくル右天目やきて茶椀ニ置る時ハ右ニ荘儀
ふるの茶ノ時ニ二ツシテ立テ取して置

百廿五 蓋ノ時水こほしと取合候ハ、
百廿六 同時茶入水指を両色ニ時分ニ
百廿七 同時釜ハ蓋置両色ニ時分ニ

一 右三ヶ條ハ蓋天目両色ニ於テ具ニ書之

百廿八 帛物之事 不洗布又ハ茶巾ハ 紙帛紗 本ト順居

一 茶のゆふつき拙ひしハ茶巾ハ三重にして用ル事後紙帛紗二重
ニ用テ利休ニしきて置て後帛紗にかへ

百廿九 柄杓立火箸置ふし持ゆる事

一 柄杓ハ立る時ハ柄を右の方へ向ケ納居ニハ立也方に
入火ハしさを右ニ入ル炭をする時の柄を右ニして後ハ右の向ニ柄
杓を右ニ入ル後茶たつる時ハ火はしを風炉の右方ニて置ク左ほれハ
ひきて入レ茶ニて又火はし前ニ以て向ニ入て置ク後の
あとのまとめ之

百卅 軸眠之事

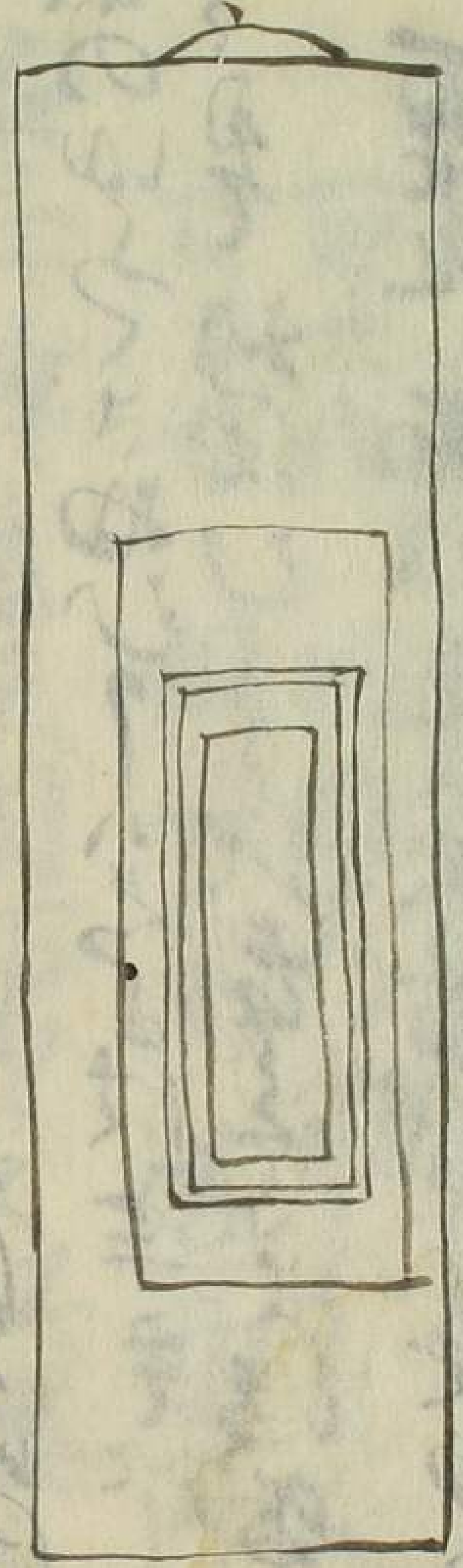
一 床ニ荘道具ハ不軸 軸ハ軸本ニ手ニ
軸先とハ軸本ニハ絵ノ後ノ方ノ軸 無地ノ軸絵ノ右方ノ軸と
とハ筆を以床の荘軸之ニ荘ル軸本ハかさると床の本の中

一 床軸ニ荘ハ花入 茶菓 香炉 中央ノ卓ハ浄頭ニ茶
入并ニ掛物并ニ荘小壺ニ菓入 未詰軸脇ニ荘ルや小脇指ヲ
荘たまふ也 茶菓の爲ハ宜ク具ヲ床ニ而て何の足もありん

一 百卅一 中央ノ卓ノ茶湯ノ事

一 飯路の時節荘ニ床ニ中央卓而て上ニ香炉 下ニ花入 後荘ニハ
於の其具足ハあらして下ニ水指上ニ小壺ニ菓入を重て荘て也
中央ニ花入ハ心得られ卓ノ足を其横出て扱十文字ニ荘る也
ありて其生花ハ花出も目ニ立て見へし

一 百卅二 真ノ表補繪ノ事



一 一文字ヲあてきと見ると云て中をも中ニまハり一文字ヲと中の
さかさまニつゝく従ひ出て 令入花も上の所ニ此やや
まりに見て たゝハ其の餘表ノ上ニ表補繪ヲ云ハ仏
ノ前ニ用ル也 中之文ハ此ノ用ルや上下ヲ定め中と
弘前ノ一文字も見て之ハ物入て表ノ見も表もの
縁表ニ具ふ其所ハ上の云て 茶の表見ノ道と
ありり

一 百卅三 懐補繪ノ事

一 一文字をまゝ中ニ出してゝ中段ハ見てあてきと中ノ下と向ニ
して出る たゝハ下ハ中の表見と云ハ南ノ云

一 百卅四 臨補繪ノ事

一 臨南ハ一文字常ノ如く中上下もなく只常ノ如くして あてきの
如くして中にも出て 上下も常ノ茶ノ湯掛物ハ
しもしたて掛し 臨補繪 表具中ニ用ル 此ハ

一 百卅五 一文字ノ事

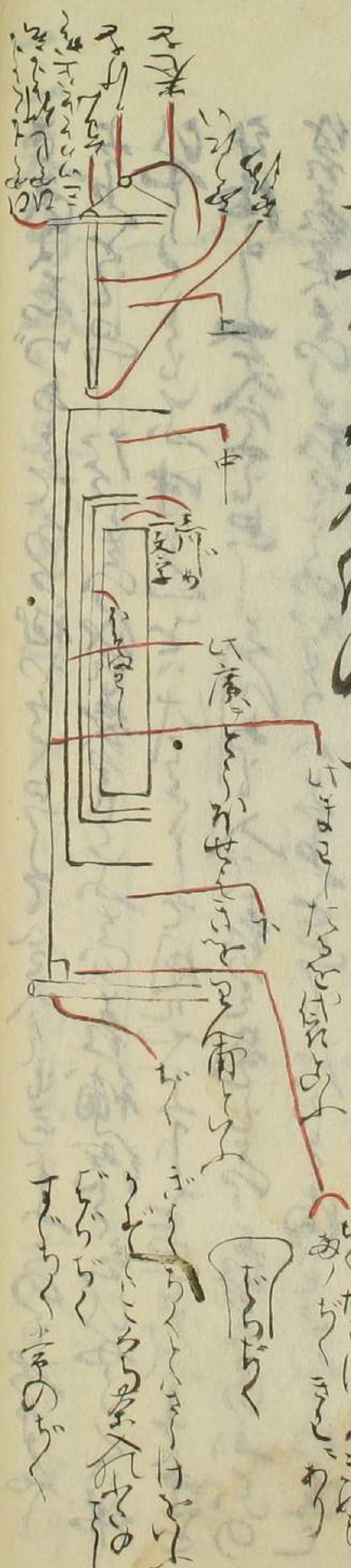
一　一文字かしらゆ中と鳴弦ともし又中をたら甫海らし又ハ中を
そらし常にして海さまたハ上下ね袋ひやう具に用ひし赤色ミ
又ハ西甲子也や

百卅六　一文字風帯之事

一　一文字ハ切り風帯ハ打ちハ常之中ハ切りて風帯に赤ゝまもめて
中ハ切りて赤ゝ中風帯とハ前へ一文字切にて武一文字風帯
とハ前ハ

百卅七　中風帯之事

百卅八　色紙袋之事　たゝ記ハ面りや



一　ひやうとくくゐりたいきをかけ紙くつ西と二まきさらへこつとら
ゆるを古織田ともんと利休かいとる書を細川殿
一　ひやうりくのきよる書き取を一巻抄ほか巻きを表り

百卅九　掛物巻緒結様之事

一　一かけ物ハ中ぶんと上下に紐とむすひ緒宜敷の方ゆ方結おゆる文利休ハ
二まきと三まきさ　はうちちいさひやうりくのきつまこもひらかて
常之古織ハひやうりく上ノこころしらちらへとせまし
一　三まく一對の時ハ中ぶんハ右のくく安左ハ安右さゆ向きさ之

百四拾　掛物人形之掛緒之事

一　矢筈を指出て勝手方に立て表紙緒ととこてかけ緒と表紙ノ下にして
釈迦方ハ八の文で左右一先ハ扉方し上左ノ方ハ向テノ赤ゆるなり
かけぬとを結くくひろけて一文字ノ下へ七寸程とひろけて掛字先
とさけてくくしてたノ下よりへ表紙を持て掛緒をいひ入れよりへ
右ハ矢筈とみてかけ字の赤中ゆり入へき程左ノ方へよせてまきこて本ぞ

の方ヘ足分先ニ床より上ハわげて段足床へ上りて取りかゝさにかけ竹計に
けて矢筈ハかへこたてかけて竪に掛しくあちらくきと押てそろく
かハ矢筈と右にして床がたうかけし又左のかり分りて床がかく
掛物のうらへとまくと云床下て上へ上床大巻物こ巻たるを之に
きて置てそのうらに向て作り紙は結せよる時やところおさむべし

百四拾一　人前にて掛物先れ之事

一巻物ハ大ノ掛物と同前之結ともに持け也　かこいハ客見入

百四拾二　三ツ掛の結法之事

一大横物掛ハ大幸にて掛一ツとかけと三ツも掛にれたるそわるき也
かけと掛てたんをさくとかけて結くをこまりて後にたてたるをかけて
中をもとりて通三ツたに急て取もすら結わかり附かに山に
わりそれハさし合又かたせさらするによりてさしめ床に中一ツ
をとつて急なや

一人前にハ大時ハ字取向之テ出て又上を立てテ見済や

一

百四拾三　掛物の本也の時床之飾之事

一本也ハ体二居候に本也大幅之居候光月脇も立て
正客よりさきの立置掛なんとすくし書也是をとくとうこ
付て出之御本也かりの時ハ副添軸幅に客之奥に又よ
れハうらすうき之床も年生吹掛かへ［illegible］かけてし前之　床前に
本也してかけとすき二床おくくらする［illegible］ニ付後覧に床之
て出てする文後に急て取とまでもとおる［illegible］する取九たりて
出なと本也り七し立向之床前に立てさすと置之
本に心まりせる七一ツ四本七ツ七ツ茶筆之出時は結本中居之
出てわ蔵物急の東又にまとに本て掛床附に
也本也する氏茶筆之出之附本也と［illegible］を取してし時は前
く出物をおさめて置てけとまさとわてすく立ての［illegible］て
也と立て之　へ九字ハ取之て後軸へ入て　軍中立て午

百四拾四　本也床ニ床附本也と付かりミ之年　けの出ニミ結法る

一 右之ヶ条ニ對シ記之右ハ不及書

百五十五　繪讃の物の花之事

一 或ハ梅ニ月の繪ありて其讃ニも梅と月とを讃せは其繪ニ花を入へからす
かんしんの繪讃ニ見ハ讃ニ花の白梅ニ候ハ、
讃を見て讃繪を見ん牧渓ハ讃を作りて詩の心をつけて繪と
かゝれし

百五十六　床ニ掛物之花を入る時の花之事

一 床上より前ニ見れハ掛物ニ掛て花を入る事ハ花を付す
ある時ハ掛物を入る事ハ前ニ入る也
つりの掛物の時花ハ床の中央ニ置て
茶亭の本床の花を立置
花を付て水を入てせん
水をすみてむかしを
へいに梅も入ても水の事ハ
又の方にて其事にて其花ニ

花入にて床に入る事を掛物の中の
すを入ても合の
掛て見物して
花入ハ胴ともに入れ

百五十七　軸之事

一 右之軸物之事ハ右ヶ条ニ記之

百五十八　左繪右繪ニ床の飾様相違之事

一 三幅一對ハ左繪右繪ニ中ハ軸の繪ハ左繪ト云
と書れ右ノ脇の繪ハ左繪ト云右繪ハ右繪ト云
向テ右ノ見れハ右の方
新命之右ニ右の床ニ入也
時節によりて花を入
とい花を上へ

一 花の風流なる人ハ無地ニ花を入て床を飾れハ其ヶ条を作て

百四拾九　道具の記之様之事

一 或つれ〳〵草に法師の花を掛れ見つめて花と見えけり

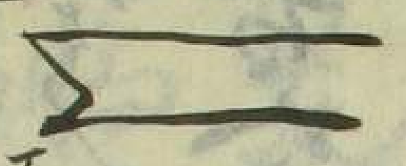
百五拾　石額碑之様之事　并兄弟之事

百五拾一　石と金剛珍覧之様之事

一 石ハ云之と云すまと云打と之 石下に古板をけて板と云昔の石の寸法を云す。たて字額をとうしれ也代ハ二寸ニ寸三寸余合ニ用ゆ字ハ昔ハわらハとも云わすめすわらハ[illegible]重成と[illegible]とうの石の[illegible]と[illegible]ハ[illegible]の石にとうの[illegible]あれ[illegible]石と[illegible]にも同し板の石をすまと山[illegible]の[illegible]の出に[illegible]大出[illegible]二寸ちかれ[illegible]ちかく山形と云わそ余代の[illegible]ちかれ[illegible]にも[illegible]のうつ[illegible]あれ[illegible]方[illegible]を云すし[illegible]にも余合よるれ石をとて[illegible]にならて[illegible]也[illegible]山形出[illegible]板に石とすへ出[illegible]ちて[illegible]也

一 其の[illegible]は急地花や唐の[illegible]は急地無屋
一 無屋之地ハ大にも思ひ候山形と云くと見て[illegible]と見わかる[illegible]乱也別て[illegible]之也

百五拾二　第[illegible]若し唐坂書之事
やもて

上

下

凡竹ハ小板ハ二日一文字に切ても入ら寸板ハ[illegible]一文ハ[illegible]也[illegible]の板ハ定[illegible]れハ[illegible]一文字にするに[illegible]板ハら[illegible]かりうまれ[illegible]そ[illegible]も[illegible]にそ

一 やもすの出るをすと書[illegible]出[illegible]書[illegible]の[illegible]ハ[illegible]同[illegible]と[illegible]の[illegible]板ハ表書の[illegible]のすの[illegible]すと[illegible]の[illegible]

一 唐板扉に重中唐中に[illegible]と[illegible]一つ奥ハ[illegible]入合[illegible]板ヶ前十[illegible]目[illegible]ハ奥ハ方ハ十四目ノ[illegible]之板扉も[illegible]心え[illegible]合[illegible]

百五三　唐板[illegible]様之事　[illegible]ヶ[illegible]記

一 百六十四 蕣枝ニ花入ル事 木中ニ翔り

一 百六十五 古銅の獅子花入ニ文を指ることを御礼事
地文ニ生れなむ時ハ文こそ入て又ハ絵を露ちらす
して交をせハ隠れたる露乱りて荒れ文字ニ置敷
書る時ハ筒ニ入てふさぎこめて書ハ水を外へ出て露ちらく掛り
それまでも露置むされハこたつてよせて書ハ必露ちらく事や

一 ありとも掛れき楠類地文ならさニハ露をうらて出し

一 百六十六 毒種の花入之事

一 露ちらず銅ハ水あかれに水に尽及ことを露ちらしても間を守

一 百六十七 籠の花入事 露ちらず

一 百六十八 瓢の花入事 同

一 百六十九 獅子花入之事

一 獅子へハ方より一輪ともの方二輪ならハ出子入子て掛ハ
出子ニ盆皿ハ入子をかけし前代ハ座敷にさる方へ方字の置ん
獅子ニ花の花ハ穴をさて柳出きくしの露[illegible]下ニ置
たるといけ上て向ふからの花も室にならて花の[illegible]出る事
ま一ハ心得や

一 百七拾 竹の筒二重切之花入之事

一 竹の筒ニ花入ル利休の細工二重切ハ座敷ニハ竹の筒二段様ニ
用ゆるやうに一段さし書ると利休ぬれでも入置て二重の
あさきの花おもりにハ座敷つけへ一方花入ためてに二重の
かけさ二重を埋にさる上にする時ハ下ハ水を入ず入ニ置
下ニ置ハ上ハ水を入置テ下ニセて露を置て上にいけた

一 二重切当世流ハ紐(?)のかハ竹と利休作りの細ん

一 百七十一 床柱ニ花入を懸る事

一 床もし生れハもの入かけぞ此時床柱ニ懸てもよし

一 如此かさりたる後に懸物をはつし同体に花入を置へし

百二　四方花入之事

一 四角の花入は前後に立花を入て花の前を向に置也

百三　客座敷之花法之事

一 三方を床に置て花を生る時は花の前を東へ向て置也 花入は水をつき入て其上に花を入也 花をいけて後に台に置て水の分

一 目録入と云事 花を生て其上に花入を押出して置事也

一 花生押出て床の上の方へ出すへし

一 花生出し時花の飾法之事

一 此花生出し時花の前を床の前に置て其上にかけて花のひきを見せて花をいけてかさりかくる也

百四

一 掛物は床に懸て花入を床の前に置つけて花のひきをして花を生けて掛物を見て花をいけてかさりかくる也

百五　主人花入を床に飾る時の花法之事

一 此時は香炉花入を床にかさりて其前に文台を置て花を生し其花を初花と云て主客共に一見すへし

百六　床無之座敷に客座敷之花法之事

一 床なき座敷にかさりて其上に茶入を置て花を飾る時は床の前に台を置て其上に茶入を置也 花入は台の上に置也

一 棚の上に花をかさりて其中に花入をいれて置也 其上に花を生る時は天井に花を付て置也
又床のうけ物の花入は床の前に置て初花を見せて置也

うたれ候をせける事は以し

一　百七　繪無紋行灯打手紙之事

一　繪は無紋行灯はあかりをとり付にはあかるきやうにちがへ申
行灯の角までも[illegible]字文一分ましに[illegible]んには[illegible]
紙は巻て紙灯九分五分九分下打組て無紋はかりを右に[illegible]て
打一つ無はあかりを[illegible]行[illegible]二寸かや

一　百八　立花の様絵掛物打手紙之事

一　高きの下さきより打二三寸曲て[illegible]之図紙を巻[illegible]

一　百九　花入無紋打手紙之事

一　花たて打十文かし[illegible]んにかけて大極紙之[illegible]ねより
絵[illegible]紙[illegible][illegible]の[illegible]三寸文は字大
三寸[illegible]は七寸とし文七[illegible]紙[illegible]
[illegible]七寸もかし文[illegible]つまりたる[illegible]打ひき

打そ[illegible]

一　百十　茶入紙掛物打手紙之事

一　中板文は曲板の横行の上勝の方中すこし向方[illegible]て継ぐる寸
なり字寸[illegible]無[illegible]て[illegible]横行は下明[illegible]九寸も寸と
[illegible]中板は打之[illegible]一分か[illegible]わいて打は利休物数寄とかう行の板の
本の曲りたる[illegible]板とせしを本打[illegible]つけて[illegible]似合[illegible]
とそ[illegible]ひとまぎて[illegible]打と[illegible]けて打た[illegible]事
[illegible]にとて古[illegible]一[illegible]とき[illegible]行[illegible]けて[illegible]

一　勝の方人は[illegible]無紋行灯は一分半[illegible]九寸[illegible]ひき
無[illegible]ひき[illegible]の内[illegible]とすることの[illegible]
打なり

一　行灯の[illegible]ひき[illegible]と[illegible]て[illegible]行[illegible]二三分とも[illegible]の
[illegible]打之人のお[illegible]は[illegible]文[illegible]
[illegible]行[illegible]とこまんなや

一 百七十一 筋掛の竹の寸法之事

一 ちり穴ハ上にて 掛竹 筋の竹一分半宛 筋を通て下の方三寸 おさむへし

一 百七十二 薬茶壺の置石之事

一 つぼの腰より出たる石ハ山水にて 壺より水の出る時ハ石 [illegible] 置へし [illegible]

一 百七十三 薬茶壺の紐結様之事

一 口かけハ 裏向けんさき ちがへ [illegible] 壺の緒 [illegible] わなの [illegible] [illegible] 茶師 [illegible] [illegible] [illegible]

末ハ少し見えさる程と云

一 薬茶壺のふたして口をかりて [illegible] 口の紙 [illegible] つぼのけハ [illegible] [illegible] 判と [illegible] 上にして [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

一 百七十四 薬茶つぼに かけたる之事 [illegible]

一 百七十五 薬茶壺之座敷の飾様の事 [illegible] 太刀 [illegible]

一 百七十六 薬茶壺下置して見て付合之事 大内 [illegible]

一 百七十七 茶入に [illegible] 上まて [illegible] [illegible]

一 薬茶壺 [illegible] 上の門 [illegible] 中に [illegible] 長谷 [illegible] 茶の [illegible] 茶の [illegible]

心と云は茶の湯の心にかけるかなめにして初心なる人に心をつくして茶を
稽古の御法にきく茶の心をよくさせすゝめる事と云に
すゝませせめて十すゝめかいさうんとおもひて此心得の無き事や
さうなるにて昔は一通りの世の中にて是を懲てかまへさるこ
茶の湯も其人の心をよくよくせさせ其道の心をつくさむ
茶人よく茶の事によりの道と為すをしてこゝに立てゝ此
て此道を心得て御前に御茶の事にして茶を出して此道を
よく心得して稽古する事肝要

百七八　茄子之事　付宗易天目の事

一　茄子の茶入は唐物にて茶入の初は茄子の茶入とて大名の寵愛
せられし時に茄子の茶入を将軍の御代とて御前にて茄子
の茶入は其きりてこゝをもて由せられまて茄子のちゝて
もちゐる茶入なり　紹鴎時代にすゝむ茶なりとて
の茄子をおもひとすへて其の茶の湯にて茶の湯に是を用ひ宗易
茶の湯のもちゐる茄子を茶人天目をも茶入として茄子と
茶入にしてつきに茄子をつかひて小壺を道と茶をと
見て此茄子を道とて茶入れて道を宗易茄子の茶入の道にて茶に
茶に用ひて茶の湯の用ひて其のもの茄子にし宗易こ之の
茶入と茶をうひの茶の湯の道は後茶入はつきてきすみ之初心
流さなる道は後かの茶の湯にかはる其用ひて道初心のかゝらんかゝる茶入
のかゝるもの也

百七九　肩衝之事

一　唐物之茶入に茄子は丸き茶入肩衝は四方なる茶入のこと

百八十　内海之事

一　内海と文字の代書てより大の文字を書てはうたてる肉は海とよくして
たいらかに名付られしに内海と書てより小内海大内海と出来
一　肉海はやさと茶て茶を入れ同へりてゆるとの入てその内海のものなり大海は
とかくに茶入のへりて茶を入れて茶と云しかして茶をよく見て茶人其
茶のうちなるへてもよく茶のよき見と其のうちなる茶とてよき所をも御と

かんなを入て紙のちて底をかたくはりはあつかひ茄子肩衝ひさつき
たつまみろう之棗子(ナツメ)の類皆あけあつかう之下ニ有也
まてにいれきつまくとさの茶入ハ茶をかくす
茶入を茶杓ニ十文字ニかうけれてふたをとりほくれにして
渡し下ハ常のこくゐのひらかな渡ては中ニ茶渡して茶入
わらぬくゆへに茶ハ茶内まてゆきのきかわくならでわたれし思ふ
て茶杓をとらへさゝおつ方へ付て渡くれにして渡下ニ有茶之道

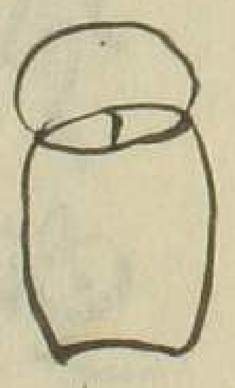
一 百八一 肩衝之事

一 百八二 柿之茶入之事

一 百八三 棗子の茶入之事

一 ひらき色のやうに寸して袋をきてれなる丈こ之のやうに丸にして
袋なるも同前

一 百八四 湯桶の茶入之事



右様につまみさせる

一 湯桶とも湯つぎとも云やくしゆんと云名物より色をかうる付ハ
つる様て茶杓ハたゝ湯つぎの根にかけてとかく肩衝にさせて色絶にやすく
かくれハ湯つぎを初心おもて取しかみをつるへせぬやうにして置也肩衝
やさの上からうつし町人の湯つぎの根よせてつるもや

一 むさ様ハふたかけかうゆへ湯つきをそこすくてかくのこちれ
併やうどに世の仕て置て右の口と茶入を弁て茶入とようかとて

又湯つぎとさそれおして合うるくのふたを取もちかれやさに
ふたを口にかけて置て絶とつまとわとふちにハわれ湯わくかまを
て置て茶杓ねかせてつるまでもあることもまくれて茶
御心そて又次のやうく色を出る様にのれハやさハ直に茶茶

ちやくハきのつくくやうされて後にあれて茶をさしや

百五　文琳の茶入の事

百六　水滴の茶入の事

一　かやうの時ハ口ノ方向にして紐ハ袋に入れ結ひやうハ左方へ茶碗をおく
紐尾結よりハ口右にかゝる茶入にむけハ口ノ方茶碗ノ右へおして
茶入をぬうちぬきをぬきてよりもあらひてよく見わけ水
滴ハ同前にあつかふ也

百七　肩衝の茶入の事　あいさうに水滴に同前

百八　銅貫の茶入の事

一　志ふこハ唐物の志ふこのことし　奥入もかりハ同前茶之志ふ
けも志ふこのことし

百九　尻ふくれの茶入の事

百十　文茄の茶入の事　太田文茄と名付て かすりと文琳とのわけの地

百十一　飯胴の茶入之事

一　ちんとうハ米俵のかたちにしてせいたかき也　口ハ今にかはらす口
かとりハ茶入をきやうにあつかふ也

百十二　常陸帯の茶入の事

一　常陸帯ハ何ちんも茶入をけし候にかゝりて常陸の帯
かしまの神のむすひの帯にかゝりてハかしまの御神のちんにや
をかしくて取る帯を常にしてかゝる地にて取りてひきかへの帯
して彼帯のことくなるにてさきを取りて御ぬのちんを
ひきふくしなれたる帯をとりて常にかけて世にうけ候由
さ事をしてつけたる名ハ茶入からのひたちかゝちこハ腰にしめ
一　筋のりをさをひきら常ハかしまの常陸帯にしたる

やきものにハ茶入ハ茶の風をもおもふへし故にふたを[illegible]
あるへし

百九三　舩子の茶入ノ事　常の形なり

百九四　驢蹄の茶入ノ事

一　ろていハ口つきの事也

百九五　瓢箪の茶入ノ事

百九六　偏茶の茶入ノ事

一　ひよ[illegible]ハ[illegible]たる石之唐ハイずれ先ハ切[illegible]
ひよ石つけ茶入ハイギといふみれすりこぎの事なり[illegible]
これハ石州流にハ[illegible]入しとそ[illegible]
いれ[illegible]

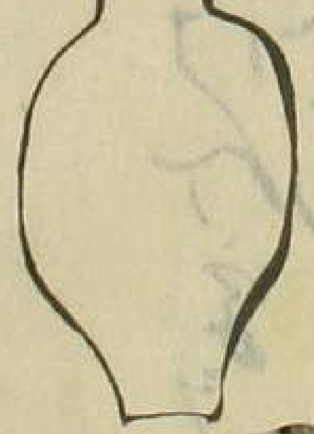
百九七　樽形の茶入ノ事

一

一　きんかりとハ酒をいるゝめいかりの事同

百九八　鐵公の茶入ノ事

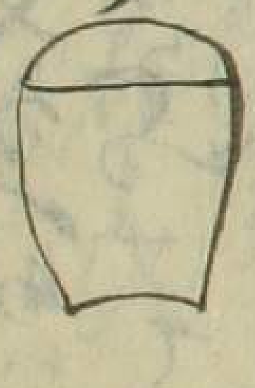
一　せいしハ凡そ[illegible]の事



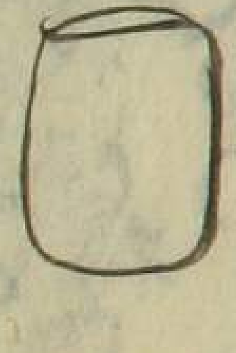
百九九　鶴頸の茶入ノ事

二百　中漢の茶入ノ事

二百一　東の茶入ノ事



二百二　頸切の茶入ノ事



一 中たてきおかりけんさりよ わくさし わくまやさい上ヶ ヶ胴ハ
ぬりて中たてさいやさい上にかど表ハとわる也へ薬抄ハ蓋附り
かへわうぬ柿さ露て也へ文字つきかみかくみにわ也ハ
薬抄と云ハちりて物て其の方をつけて後ハ柄の方添て
いられ候事也

一 大こ色の茶入ハ薬あてくさをもつゆる也ハ傍茶ノ銘をかけ文ハ
かんなんのく児かかいハ又ハ海を也なとへ作てあるハ后ニ書く
さやしき薬事くさ書也 右銘をつけせい海を也をかさ又用所
たとは茶あてくの上にまい表中にたてよのくわり右よせて書へ
つまるしニ三り文ハかへよせてやさをてきまるへ書れし
よせて薬抄をもつへし

ニ百三 盬器て茶入ノ事

一 のそきはせ文字かくらわれわかにし 文字しけん字もの[illegible]
そ茶かくそ茶ニ[illegible]くしめ 古代に書く巻キ中に盬ノ
字ハかり盬をのそもしと云字をかきれり[illegible]

盬花行文字にかき書盬字ハ文字をたてゝけ也たく入わるも

一

ニ百四 薬器乃茶入之事

一 薬器ハぬりもの焼物もわりかつねいきうかにし而候

右廿七種茄子ハ茶器とし十まとかき書て芝かき書あつし
別紙に記之

一 茄子 茶入の内のまかたり[illegible]の内ハ天子[illegible]
いま行の唐茄子を用ゆ茶入唐茄子ハ茄子の[illegible]茶入を用ゆ
又曰茄子ハ露ちをとよハ京極茄子ニ露あり茶わり[illegible]
きんとやや 又曰老茄子のまハ[illegible]をかれ松本肩
かうくハ茄子茶入ハこれ[illegible]し名とん 又曰よくハ露入[illegible]
至のニ行く多分本口ひきさ

一 肩衝 わ草[illegible]やまの[illegible]に茶を入用ゆ
け時代にハ入盬にのせ[illegible] 又曰[illegible]の時ハかく[illegible]

出ル若葉ニ時ニ立ツ時ニもたてる面や柳桃たんぽぽの[illegible]とも
そこの花から花がらつきたるわざといひ　又同じ肩衝由肩衝
走りのまきつきなる国肩衝　又同じくは板目にて流入の[illegible]
平衝[illegible]ての丸同たるすて　すぐ右の方千ると板[illegible]付[illegible]
同じさりの名具にまかせて本の物橋にたぬぬもとにけれ
様にたて小なんてな趣にかたさる[illegible]代竹竹も中子綱な
[illegible]ぬこれ[illegible]文字[illegible]けやりしと常世[illegible]とや
又同じ袋にはりし地に[illegible]を用し昔は[illegible]大[illegible]
一肉海　[illegible]全国を用し古き[illegible]ぬし字[illegible]にしり[illegible]に佐て
[illegible]月[illegible]肩衝[illegible]て海てそて[illegible]さし[illegible]
又同じ肩衝[illegible]て[illegible]ひつや　又同じ袋の[illegible]りし
作　又同じ茶立時[illegible]のこと　大[illegible]肉海の[illegible]けて
茶とすなひ　又同じ小き肉海とくらうことやまるやとりや
大[illegible]を大肉海小きて小肉海[illegible]
一国壺[illegible]る[illegible]世[illegible]のさ[illegible]りや

一茶立時肩衝肉海同前
一柿の茶入　右柿の[illegible]に作り出す[illegible]也　定[illegible]
[illegible]茶入[illegible]小[illegible]や[illegible]
一棗子　右からしの形に作りしや
一湯桶ひつさげたる[illegible]も桶[illegible]　二枚の[illegible]
[illegible]入金[illegible]時つると[illegible]出し時[illegible]
[illegible]帯[illegible]ちにせけ[illegible]をれは[illegible]
下[illegible]な[illegible]向の[illegible]れて大[illegible]上に
[illegible]せけ[illegible]茶すひ時に[illegible]前[illegible]
[illegible]て[illegible]やされつ[illegible]
一文琳　右[illegible]の形に似せて作り[illegible]
[illegible]文琳[illegible]と[illegible]林檎の[illegible]　又同じ作り[illegible]
[illegible]元[illegible]もち[illegible]
又同じ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]上[illegible]
一水滴　[illegible]茶入に用時[illegible]いてさ[illegible]や唐[illegible]

此ハしにゝて文字とてかきしわり多分馬蹄に有り
其ハんたれに付しわり〔かきて〕ゆるしたまて　又同前に入候ハ足を
之ニ候ハ是ニ明ニ候ゝや是ハ文なかふ也ニ付て口の上ニ有リ
入合ゝしてさいの名ニ入〔候〕ハんてわしき〔ゆ〕ハ紙〔袋〕に入〔候〕や茶入て
付〔候〕名たし〔て〕候ハた〔る〕播〔州〕の極〔め〕〔候〕と〔申〕よ〔く〕の〔御〕
設ゝ〔候〕と播州の方にて〔製〕や茶入い〔つ〕れの方〔に〕いたさ〔れ〕候とよ
せられ候之事とすらいハ〔御〕物〔に〕〔候〕よ〔り〕宗〔易〕〔の〕時ハ茶〔入〕ハ
入〔り〕そ〔う〕〔の〕方〔へ〕〔し〕て〔お〕こ〔な〕〔ひ〕〔候〕て〔わ〕り〔て〕〔立〕〔ち〕〔候〕〔く〕
しての〔し〕〔は〕たゝよわけ〔に〕て〔候〕と〔之〕〔し〕て〔おこ〕〔る〕水滴のわい
其ハ秋〔の〕〔し〕〔く〕〔は〕土ハ　又同水滴のわ〔る〕そ〔う〕〔あ〕〔ち〕〔し〕〔て〕〔ちら〕〔い〕
〔此〕〔の〕〔う〕〔き〕〔乃〕〔ハ〕〔古〕〔き〕〔申〕〔候〕

一 〔小〕〔壺〕　水滴のしるしうてたりわる〔所〕〔見〕を〔言〕〔ふ〕〔ま〕〔さ〕〔と〕
〔申〕〔す〕〔ハ〕〔り〕わいさうい水滴〔の〕〔口〕〔な〕

一 饅頭　漢人の餅菓〔子〕〔唐〕〔物〕〔の〕〔饅〕〔頭〕〔に〕〔似〕〔た〕〔る〕〔也〕

一 〔茄〕〔子〕〔勝〕〔れ〕〔る〕　茄子の形〔に〕〔似〕き〔を〕〔云〕〔ふ〕〔し〕か〔茄〕〔子〕〔と〕　〔一〕〔段〕〔よ〕〔し〕
〔但〕〔し〕〔ふ〕〔く〕〔ら〕〔み〕〔は〕〔上〕〔に〕〔し〕〔て〕〔ふ〕〔と〕〔り〕〔にして〕

一 飯胴　こかにしてすそふとし　水指のなりに似たるなり
ふくらみつゞく

一 常陸帯　かたさきの形して少ち挽し腰帯のやうに細く有
さしてかきしはや候

一 瓢子　酒入の形をあらはす也　挽も少くすそふとなり

一 汁沸　口馬の沸に似たり〔緒〕しめなし

一 瓢箪　子細〔お〕〔ゝ〕〔き〕に

一 擂茶　擂木乃頭を似せて挽也　唐にては抹茶を擂鉢にて
擂木とすり鉢にて擂木乃先をうつしたる形に似せてや

一 橘形　橘子〔の〕すそより〔に〕してすこし似たるや

一 〔繋〕〔生〕　形ときは〔ゆ〕〔ふ〕〔く〕〔ら〕〔し〕

一 唐物ひきさるは

一 文茄　〔唐〕〔物〕〔化〕〔言〕〔こ〕　是也

一 中繒　上へつまりてすそをれ〔候〕〔て〕〔名〕〔所〕〔ゑ〕〔て〕

一 〔未〕〔て〕　〔ふ〕〔くら〕〔め〕の形に似たる也

一 頭切　こうからや　今〔擂〕〔守〕〔と〕〔申〕〔す〕〔る〕〔也〕〔に〕〔如〕〔何〕〔円〕〔口〕〔形〕〔を〕〔と〕

一後醍醐天皇芳野にて動作や
一監照中湊にもそこかとくきらやかめんれとれよ来る
ねがおり
一菓子　菓入の茶入用違ひ事方に多くあり
以上十七種や
二之　客人炭所望の作法之事
一客人に炭所望は挨拶して、そこにて炉中手を作法を直に細かに
そこの処にかけ心得て不出来の時も心入れ有りて炭よく有る也
一前より火箸にて炭つぐして、まいのりき置き所を致して亭主へ
杉箸てまいの炭しの場所におけて炭を置き致して置方も
脚に客人の置き所さいなと炉中を改めしの湯へ出し
亭主客人の置き合ひて後にわろくそことりも出来て入し又かき
置きして可以での置き所は炉中を左に直にあら〳〵
かしれくと出して取扱ふ
一座り炭の時亭主そこ方を炉にて炉にきさし火を見立し所を致して後
そいそもまきて作法ちかひくさて客炭所望や
一客炭所望の時は亭主も内へ入て客人の炭置きて後へ参る心
わせ置きわして客さしかろに出て炭わせてまいて見合
二ヶ条は出帛紗入とんかしと申事
一出しんかり入んかへの事も是に客入は客立亭主にたくまさる天目
半客立尾方とあかして出や出しん入とんかへり出し
座内出しん入やたとへば下座床の端の客にて出しに
出の又は座の上に出して茶入は出しん入て天目入と入んか天下一
床の時茶入は入んかへて天目出しんかへて床上下にかわし
てはは客名所を床内にはかさね茶入と名をよ時太刀
まで可浮んやなは茶の脇しろ茶入を出しんか又は
入とんかにわけしやれ茶の床をかわして人作
てく出しんか々はか出して出しんかへ入ん
わかの名残根本や
一志は庫の上に長盆には小壺を茶入と天目を洗に一つ竹筒花入あり

むすびハ常の花のごとくにして尾ノ方一ツハ先へ一ツハおとし
てかざる也先へ向ふ入べし中やすく向ニとまる也これ又
宗易二ツ紫ハ何とて看目の釜とのをハ茶入ニ用ひ後て茶
の湯せし位し宗易より二ツ紫すなり

一 床ハかかるニ茶入袋の結ハ何爰ときまる也いつ八紫に入たる時
のまま上座床の脇ハつかの紫の結ハ入と合かしき向ハ薬とほし
杯は何也それし初花後ハ花生とかわりにけれ茶入一度床座ハ
生されにも同事也初花花にも茶入出すれ時のよき重子ハ釜
ハ茶入袋なしの座大目にも花なれハ床に置なりまりに
しそのもつかい袋入の時の事也義式ハ何時と能かんなる也

二百七　諸花生を出し事と返す事

一 客も座敷ありて時に居て炭すする時花生香炉脇へ大目
炉にかかりて枝わるに客をしとき内より枝のハならとて香炉出申事大にいむ
車也又置せ切たる所に又紫あたるほと起て重子と炉との右の方ニ
香炉出す也ときして後に何ハ香炉にきりて初後とた何にをも

毎ニ花わる中ともよりて入る也奥にさしき入ル也又大
目切ニ中柱かくとき水にてハおよ又下大同前にていひ入てよ出又とき
きりハ又にかけ大目にも水さしの横ハ何もおき時ハ香炉
よきをも出しても同ニたてに其炉の花さしわし客にとききを
の高にして後ハ出しても茶世にしてすがた後にハ出し
ぬとする多し水さしとあり茶入ハ手数多なるして大にいむ也

二百八　花生物座敷し時無花ハ如何し事

一 花生物ニ生候初花時客座無ニ上手ハ入て一本のみけれんで
後を無切り炉中とりて座敷出る時も返き後とて後をかさる所と返り
て花出る事大きさす様ニ手ニ無てこれ時ハ花生もなり切ふさけて
切る時かくさたしてハよかりして後をかさるわれたハ又わる切ふ
こへ乃花の方と無き事ひろくして傷たるとして無き事初後大に
常にたるハいし事結構の後をかさる所をけりていくしく所に
て無きとききて跡にはりて常の花より後を無き入れもよ
かるわかき又入ハ入合しくハかざき無き乃きをもすり入たるかすし

一　二見　床奥ゟ客て床中に行さし事

一　掛物や花入の前　茶入の尾を出し露とふ　茶杓の
さしたる事の座敷ハ中にかへて茶をつけと云

一　二十　茶の湯道具ハ床に荘る事

一　まつ七つ荘ハ床に香炉花入を置く　小棚ハ天目茶碗に居置　小摘
摘物それにハひとしひとつこうしとかて台天目七つ荘ハ天目茶碗へ
わひ茶ひらしかへてハまた運ひ茶入台天目小摘物を
これハ床内に七つ数に眠るかさりハつつみ盆
香炉花入ハ三色へ床の中にすへき右へ　台子だいかさり
茶入硯筆架葉茶壺の花小池の向にかさる右に
かつかいの燭台に　かさり置る也　床ノ床の内に三つ置
かさるいかにも中より茶くち［illegible］とかさる　わ、つつみて
わりの目かへ入し　燭茶にハいのかたいさ　初花床きやきり
　ありかさりを　後にわいけ置し
香炉入ニ［illegible］床にひとよ

両目かけし飾ル初花を飾入をやめて掛物を床へかけ
よろ入しても　花をひし　おきしやしを茶をかけて下荘床よかさりて
後にわいけ小両目かけて床の茶を入ハいつとも花をかけし

一　二十一　茶の茶の湯の変
一　二十二　行の茶の湯の事
一　二十三　草の茶の湯の事

一　大二根の茶の湯をはじめ　専一事にハ寂よし　かしこまり候
具を飾る事いろくの心得ハまいこともかり行の具もかあ
茶のかさりよろしく　拙き事にハ心も行も草の心をかへて事に
後ハ茶の前も同前なるべし

一　初座ノぎし
一　小口ハ水さし事
一　後座花をいけ香合
一　天目台花に
一　茶入りの香

一　ひしゃくたてわけ出し
一　釜かけよう
一　これしやうさ
一　茶入の中へ入る事
一　七ツ道ねらひ

一　釜様わけ出し
一　羽わつかい
一　茶わん釜ノ
一　茶入具ニ［illegible］
一　茶入ぬぐひ

一 二つ置合わつかい
一 ひしやくひかへし
一 茶せん余わつかい
一 茶巾わつかい
一 湯合ひ
一 かへ湯てまはし
一 湯こゝ入れ天目すゝきて
一 茶きんのさばき
一 ちやわんのあつかい
一 水さしのふた
一 くわしをすゝむる
一 二つ置入れ
一 こほし持出れ炭出ス
一 こかしわつかい
一 後ノ炭ノつき
しけの数多成ニ付入ハ書ス不ハ行の勢

一 天井ニ上り
一 湯ヲこゝ入
一 壺ぬぐひ茶きんさばき
一 ぬぐひ
一 茶たつる
一 台天目置
一 茶入の盆向ニ置
一 又湯入れ茶碗すゝぐ
一 もとの置ぐひ
一 ひしやくあつかい
一 もとの置ニ炭出ス
一 さて盆わつかい
一 もとの盆天井ニ上る
一 始二盆わつかい
一 後ノ炭ノ切候ニ付

一 茶杓ぬぐひ
一 茶巾をあつかい
一 茶入仕わつかい
一 釜のふた
一 盆天目出ス
一 釜のさし水
一 壺ぬぐひ
一 茶杓ぬぐひ
一 台天目を盆ニ居
一 釜のふたとる
一 茶せん盆入れ
一 こほし入れ
一 さて盆炭出ス
一 台天井ニ上げ入内

一 床置合の事ハ台子ハ香炉ハ天井小盆ニ茶入台天目袋ニ入
草のくハかけ候床の間に後二ツ飾り天井ニ天目小盆茶入
大丸盆ニ乱飾天目ハ置テ天井ニ小盆茶入台天目持
出れハ又ハ天井台天目小盆ニ茶入持出れハ
一 行のあつかい天井置テ取ちかへ扨ニ取置候し行ハたゝみ後
しいゝ茶ハ向ニ置ル也茶入あつかい天目あつかい茶巾ゆくさ
しまく置様行を格にたゝみとりおかへ行の茶の湯
洞ある時ハ茶入の湯はつとこしまいしの初後にまゝ
一 茶でハこゝに置候加減して茶入のはんなりて茶の湯の付きて余体
行ハ扨二点ニあたり茶やけ付き候
一 二畳ハ 左勝手之事
一 左勝手ト右ニ而ハ右勝手ハ方勝手ニ大勝手ハ本とハさげ中勝手
小その外ハ一方ニ勝手ハ一方ニ在り
一 二畳大 茶入ヲ茶碗内ニ入床の飾り棚之法事

一 廿五 茶入にをんぶゆんに茶碗かは無心にて入にしてて庭
後座には茶碗を茶巾ここそ波茶入てくみ合て水指かはまはりて
下にかるる道具に向ひしまして初花にかれこさそて茶巾と茶入れた
あつて茶碗切入し又つくまとるかかりの事に候

二百十六 床香炉置合之事

一 きし香炉には無心のせて置たるありあるは無事にて香炉は炉火
にはあり三種は床之上中よりまや

一 香炉之事乃座敷には下たるとこいけてうくとわさしめて置てこちとの
てたたん又はこさりすここにし入て次にはしにはしかりにはとりかかわけ
て香炉にせりいかこうくかき上て帳を置つたしくとかるとや
書院の床かり

二百十七 狸朱闇には行灯（アンドン）夜は短檠（タンケイ）灯す用の事

一 夜陰にはひかりにかかしはしも一入あきやうにかきかくしてたんけい台
とりまんかく入れ夜のへにはあつさんかうは出たしおとろ合

あんどんさかけてとき中とんすくあくまてなるたけし中一わさく
たるとうり入れ村さんけはかゝまいはかりかゝしわんどんにとまもて
とも入れふ右たん多いにもひかりのやうにてくせいたくさ地や
わりうくわりれとの事かりあんどんにはひきくしてかすの
なるれとの事かり夫ん多いにもにつくせいたくさぬ見かりあんどん合用
のはいうこうと地かりうよひふくの出すくし出さる時は色あかれ
かうるれは出すくこ乎すてあんどんを立てたんてるも右
さんなはいうこくくつきて

二百十八 木灯（キトウダイ）台之事

一 きとうたいはかでそそのとくにして上にくろとてをとて下四
わうちぼとくさてきく摂とは蓋中すくせときさに木灯台よ
いるまなか上にさんけいを中一とまて

二百十九 掛灯台之事 せし六尺右

二百廿 路地行灯之事 夜会には路地と路地にはかり
わんどんにてつして両内とのとく

二百四十一　花入小板の上へ置文字とかゝりの事

一花入に花を生るには花のかたちもわさとかゝりよしとて花をもさしいけぬと一筋には言わぬ利休は花入に花を生るにこの頃のはかりといふもたかくかんに入たる言わりたゝきわきやうにかゝるゝうちにはもとは花生をかくるわけなり花の間に置いけ花の本をのけ内へ入つつまてことはまかりて生れてつる道をいけ花生小板の上に掛物にも花かけて生る事よりも古へは釘をうちて花入をかけしりまて床の内にかけるとも中かけし床の上にかけて置り又花入を置く時は花の釘にまてかけしにてはかゝりわきやうにしてよろしくかゝり

二百四十二　掛物花入の紀法の事

一床にはかけ物を大わきやうにて懸物をかけ又花入を置くには掛物の上にはかけ物かけて花入を掛て床の事わりにこれは上客にて候かゝり客人上座にてあとの掛物のかゝりかけ物かけて行かゝりし同じ向

上客て揃て行て後客もわかりて先に座よりて花入にかけ物の客人はあたりて上客に花かけわりしけれは掛物に客人と揃て通る花もかけ掛の用に候

一亭主もかいに出て客も揃て亭主花のこしまかしの亭主は出て後にかへりて客人は上座につきて床をかけかけ用の客をまかりて客花の後に掛物を見て床入りのしるしの人しは亭主をかへりて亭にてこれを二度すれ後の亭主はよくへ

一花入に添てすゝめ事

一花入にはかけ物をする客人床にかけてすゝめ亭主の用向もけれは三間道一客とて後まては床にかき共床の内へかけけるとかり亭主しのかり客人もよきには添事かり後ありとて一客かり添てかくて

一床の前のかけ物は床を見つ先に客人のよく見とうて添ておこう床の前のかけもの見物の間事に有中之候

一かけ物大文字にもあきやかなるよしこの間に掛物は見え大文字は見て入って是は添の成

一 床にて料理出し候後茶の時も出すへし 出してハ侘にハ出すへく
かし勝手の[illegible]も出すへく候 [illegible]茶の[illegible]入
付ハ茶も[illegible]不能[illegible]ハ [illegible]
一 菓子の器[illegible]かし[illegible]の事の[illegible]
一 夜咄にハこと[illegible]もかすかなり
一 初座にあんどん 床料理茶菓子ハ後にて客[illegible]出し候て
くらがりにて出され候料理出し候へハ見る[illegible]事一つ文庫
に料理をおさへ[illegible]茶を[illegible]に料理を出すへし 又[illegible]
出し候はゝ料理の内にくらかりにあいけ[illegible]ハ
天にあけ[illegible]にかつたれハ[illegible]にさて[illegible]に候て料理
も出しさの[illegible]わるくかゝり候て夜会[illegible]料理出し候て
くすまぬ事にわけてするをいふけ[illegible]そ[illegible]て茶菓子を
出候いる[illegible]ハうしろ客にて夜咄にハあいさつにも[illegible]にて夜
しても炭前もく[illegible]と[illegible]さひ[illegible]もしてわけ
[illegible]とん[illegible]下客で菓子のあけ[illegible]けし[illegible]たし[illegible]
[illegible]さかしてたのしす[illegible]

一 後炭ハ客入の[illegible]とかく中立の前にわかをて本の[illegible]
うち[illegible]事し客見[illegible]ていたり[illegible]
一 七つ後ハ客勝手の[illegible]七つ時ハ七つ過[illegible]客[illegible]金
[illegible]やりくる[illegible]おりて[illegible]七つ[illegible]客ま[illegible]
[illegible]きつて[illegible]こつもり今[illegible]ある[illegible]
一 中立ありて[illegible]かけ[illegible]をつけてすれハとけて[illegible]
[illegible]こい[illegible]すへし
一 夜咄ハ[illegible]さかしきからうけ[illegible]一[illegible]内[illegible]
し[illegible]一 中立[illegible]わかの[illegible]すりた[illegible]一 明日
[illegible]の[illegible]入て[illegible]入[illegible]一 菓子にて[illegible]
[illegible]して[illegible]出し[illegible]一 大[illegible]京の[illegible]を[illegible]
[illegible]一の[illegible]や

二日其三 道幸之事

一 道幸ハ[illegible]夜会[illegible]かさす[illegible]能[illegible]とり[illegible]
道幸[illegible]道幸[illegible]箱[illegible]とり[illegible]くれ[illegible]

出してくのかう湯をしすゝけ一元合あり、もとよくに茶の湯
の道具ハ常の具何とても其座の内に入置て出て用又ハ
其道具の内細かにすゝてくのかう湯をし純粋なと其座
と名付られ候三一色二色あとかしてあとハ人をとも湯立て
置り其道具湯をし被箱より出してかし人形とかんかんと当かと
なるたりいわるゝのこんを茶湯にたつもれにし事とみをて入
こゝましてたつゝるも小様なり

一 其日朝風炉一ツ置ノ時ハ風炉出して置て其道具の内の
の様に炉風炉へかから純粋も風炉ハ道具付候ハ其道具の
ゆきしにもとくへかくして茶たつる

一 上ノ棚ハ茶入茶わんにこかしら置けにひしゃくあり

一 初炭ハ柳を炭斗計ニ羽又ハ釜かんにかくかけ置

あらく置同も拘あり

一 初座床ハ掛物後座ハ其道具入ても勝手次第入りてもよく

一 同香箱其道具のこし置かるゝり

一 後座床入茶入壺飾入ても飾て一揃入もおしわるゝなりて其道具

入壺もひしゃくかゝくに置とうく道具へのこしたるへし

二畳台 床ニたん茶ハあんとん置事あり藤原定

二畳半 風炉の時ハ(スキャ)木すへの手

一 風炉かゝりの茶の時ハ其湯わかし又ハ其風炉もに出まわかへれ
炉置ハなくも湯立こつの湯の茶ハ[illegible]すきかへ木
あまりかおきさてゝ湯かへらへやすきてあつかいへ置の其道具の
かけりつれてもく右合れうたり後に置て手てかゝれに釜
又まきて風炉ハ置つれハたゝ置て右を後に置への[illegible]
こゝらのかうおもけけや

二畳ハ 壺の絵之事

一 壺の絵無地ハ時ハ壺を出す初座の掛物後ハ其道具の絵
それハ壺の代 壺の絵無地に同日に東一かの絵とハ無地
風炉の絵為掛も此ハ初座床掛の後座被其壺の絵かけてたいけぞ

二百七　薄茶之時客人ハ茶碗をとりて飲様之事

一　こい茶も客人より茶碗一つにて出候ハ末座之者のこわしたら茶碗を又客人も客人ハ薄茶ニ而無之候ハ茶碗を勝手へ返し茶碗ニ而薄茶を出すへきてつる茶碗知らハかく無之事也

一　主人ハ茶ヲ出時ハ古唐ニ而も心之茶碗ニ入て出すて主人ハ上ケ候茶をとく茶きんにて一つハ彼茶碗之茶を出して

客人ハ茶を飲して彼の人乃茶碗を出して上ケ候茶碗の御茶かてゐ人ハ茶碗を出し給へハ客人ハ茶碗へ入て彼乃人乃茶きんにて上ケし茶碗のうちをぬくひ

さしゐるへし　乃茶碗をあわせ候へハ古唐のかゐ侘茶碗や唐物茶碗の代

茶にて御茶へ入し茶碗乃茶も同しあいて湯ハ左様之日の

上にて御茶をたてゝすくさんしかれハ中ニハ同しかるへし

太よろ人の茶碗に入候へハよろしく可有

一　主人又ハ客人ハ茶を同名しよんの器物人ハわつか人ハ

主客ハ中ゟ茶碗一つにていたして桐箱にいれよの茶碗さしへし

二百八　桐箱茶碗之事

一　此茶碗乃茶湯さんくるまへハ和法とする一ツとなしおむせ茶碗へ桐箱家数茶乃湯さん主人ハたとへハすつ道て客ことにすへれて

まきいれと桐箱之宝物のうち箱へ和ゝ物なすへし

二百九　提子ニ而茶湯之支

一　名スワイーシテイーハ茶碗を出して方ゟ湯を入いそけ（ウシロ）

て取り出すニ又なるとしてとて茶碗を出して茶湯を出し候

より出して茶をかへとて出す但茶入茶碗出し

二　ニかしや生ひ茶かハ茶碗之茶を出し

一　主人も客人の時ハ客ゟ茶をせくとゐけて茶を出して

こなわせしとあけ茶碗出しせしとゐけて茶出し

一　水さしハ前へひき出して茶出しへ

一　茶入茶を客へ出すのよき向ハ下ひ茶碗ニそれをくしてよせ出之

一 こんにやくをうすくわり杉焼にても又ハ鴫焼にもたんを

二百卅 石竹焼大名の花とも(?)の事

一 あつ晨下行燈をもて月夜ハとも云大海人のこと云ふ二海と申候ハ中にも西ハ月夜ハともおもひしハ宮遊ひて後月夜会の分にわけてし月夜会にわたり候へし遊ひハわたり候へし

一 亘ハせしに下わけて四ても水ちらしても仕儀にも出すへし

二百卅一 雪中の花の事

一 雪ハよひよも四時にもてとひ客にもわたし梅の付出て宗匠の心さへさるの客にさらに致候にとひ入申てとをおもて水辺の色に心付て雪のつもりおもハれによひ入ても是心得大事とひ入の大事ふりして小納すても雪ぬき遊びかてする道ふれハ花筒きハふりきあけてとひ入の上にてハ湯をかけてやり上筒のに氷のなるとひ入とれハけれどもひとりしてそれを出し花筒の宿は居

のさかりなれは村ハ外の樹石庭にて雪の上にかゝれハしかれともうちにてハ花を出すへし

一 かこいの内にさし入とのよき花葉ハ見の入にいかにもあつき花にも心わる宮守らハまかせよき雪をもさふらひても面白る大事にもおもしろからす花のかんの内ハも土をやしたるをおいけても面白ひるやうに見えにして墨絵にて大文字をとも見てもとおわりて常の人を知にまかせてさへさかりにて用ひらるわり

二百卅二 寒天の時分の花の事

一 すゑまとて寒中すまハ座敷に水のいれなき花筒中にて氷てすへきをかうてる樹にハわけて水ちらさせて上さきをかもし所替て西ハ蔵所にかうつきはなの後ニ見付候二ツ所の花を活遊ひ人の手を胴盃ハ大寒て天ハ水の出ぬにかそのふ内ちらきうなかさてん入たまへしうこしねハ二番にもしてゑれハ内の所も出てわかれ候も文ふまハわらね常きられ所ニ入とし候ハ水の内に遊ひてたひこうちにまかせてもひき小竹花の内の上のかよのの上をおりし数梅花て一所も色にある物と見れ

一 ゆりつゆしき所に有之

一 しゆ水指に湯桶出し茂にやうきに水無く家後を以柄杓
出して水指のわけ之のよて直て吉ゆゑけんわらかたつくして
座りに茶たつきに茶せんに急にわつて湯入まいらせてきられる
抛之出んにゆかへて湯をすてて落にゆ多く入に茶筅やすめた

一 夜通部屋の客に炉火とわるなて客わるゝすると吉

二畳三 羽帚之事

一 右ハ二ら柱に渡ミ二ら柱へ継目ハ三羽ハくきハ右かさ乙まて∴
はそくかさ乙を紙に包み所ゟるとを包よりそしゆひあはせし
右客かたハきは口口付とくらさ乙をきまいよゆの所のかとくし包羽ノ
竈乃方を わるせ三所ゆひて所ゟるをわろくハ小包にしてゆいて置
下ゟの下ハ本ニ袖ゟりて挟みて又ハ袖ゟりて竹無紙にして用

一 田ハ右ニ縁ゟ分れハ右羽を用ゆ右縁ゟ分れハ左羽を用ゆ

一 柄ゆへ竹の皮にて包み巻て其先ひもひ不羽の裏ハ方を
との二ら大小になれ共又一ゟの上ノ二方を本とわする也

一 羽のくきを羽きき二分斗ゟこして切て竹を以て羽ニ当つりてくゝり
の上より三ら巻て竹ゟ合ねきを一ツ挟すけて包や

一 柄の長サ羽ゟ二寸ほとにする羽毛け迄ハ柄ニ一寸羽ハ二寸け迄
ハ柄長くすゝ

二畳四 茶筒箱の茶入之事

一 茶通ハ棚をてゝまゝ又ハ茶入の内に茶を入て口を封じて置ゟる事也

一 箱の内に二種入れ式心之の茶又ハ二茶之ハ茶又ハ本茶を切又ハ
本茶ハ多く茶ゟ乙ハ二ら所ゟを取出し合ニ所ハし茶ゟとるゝ
二種入て出ん

一 茶入二ツ内ハ本茶ニ肩付を以てのゝし茶を所ゟにさせ入

一 茶通棚ゟ取出して出て置てゝ右てたゝ方に置き肩付を以てゞ
たる茶入を箱より中に出して又中にして右二方へよせて置き茶入を
ゆひわつくハ茶通を出にて棚へ上ゲてたゝ方に出て出ゟとゟて

一 二ハ茶をとて棚へ上ゲても初ノ茶入縁ゟ入れて出にして茶入肩付の
宜しく引つゆ箱のうへ出して出ゟる

一茶通箱の後は茶入出て後に返しの時ならし
一又濃茶て茶通箱ハ勝手へ入ル

二百五　茶湯棚乃様之事

一臺子ニ丸卓　袋棚　紹鷗棚　利休棚　中央の卓
其後　水指棚　臺目ノ二重棚　一重棚　房風炉棚　小さし棚なとあり

二百六　囲炉裏の炭之事

一すびつといふハゆるりの辺に灰をきまはしけるにふくさは灰入よみ
小すこしなるとこしくもとゆへにしれはゆるり出にをごたを云
袋炉ならてことゝも云なとを云濃後柳
爾てことゝもの火の道たつ様にことを知るへらけの
かくは其外茶事上手御好ろくいわる迄入らしきく
そこらへ合へてゆのこすびの大かるねてことを知　九炉へて出て
是ひらしそことを知りいて入て出て炭ならひそ炭かゆの言らす
ほけ爲にきこらるひけは二夜釜敷かきんれ夜　明炭出さす

其　胴炭　ゐの炭　切炭　山炭　白炭なとを炭からのたき
沈炭　丸炭と炭　なめ内入て出し　釜ノ名様々ある炭にて候之
皆とくなり

二百七　風炉之部之事

一切ハ風炉　内合乃風炉　そこから出風炉の化宗
前ニ合て不知とわかりて云又合て上ニ付きたる守ハ丸
まゆわりと云物の丸風炉　鉢風炉　らくれ風炉　其外ニ風炉
是くわし文もくわし　風炉ニ土後なわさし風炉と云わり
私是小そくとも云ひかるへし

二百八　炭の取し事

一昔ハ山炭之炭用ル　小野炭ならと池田炭　白炭ハ胴炭横ニ
炭の物に古ハいけて胴炭横ニ炭の白炭ハとそもつくとを
るすとれし

一胴炭炉ニハ長す合ならにして七寸八分　七寸五分　風炉ニてき炭ハ長く
ゆるさす三寸もかくりへし

一 わりな炭ハ備ニより組六七分ノわつニ組大かうびんなるよしにより
すこし又竹輪のよくかゝる炭で組こ又なにしすこし見せ用
組たけいるを遠しき炭丸入まりても
一 炉ハ炭する昔ハやもとろへくしそ炭をとゝさをきてとさき
どをくせしこち有に胴すこしかとしりへ古風かと作中少く
せしまて今用る所ハ炉中わさあしけりてさのこ炭をかさ○上五
炭のかゝらかなにして広くする
一 てんの炭とて炭の上海よのをすこしもとりすこしにても抱まき
くんちんの心をしわいちのに当る也まなとひさつて土 又こし
ひくぬき炭組き丸位の炭組ん

二百三十九 炭斗之事

一 さい本ずみに唐ものにまき鈴やとさいつかと炭とる斗
にそへて用る也ノ日ノ外たるハノ日さし為しむや
又是のこんれ行や
一 炉ぐハ炭斗ノ外るハよつくべしと総隅利休かく
せい炭多く入れふとまさくへ下し古蔵かわさく
して本えと用ニも箱炭十本なら黒まき後て
用る事ノ事たさうしかや
一 よきいう料つハいよと胴す或ハひとし数十文字まき合を
きうる扨出る所々よ炭大て扨たた下々へて出る炭たさにて指出る
炉風炉前に坐所によをして扨ぐく炭する所ハおもむろて
もらいかしてまて炭へれず為て炭すへし 上海のへ
又なるへし

二百四十 火箸之事

一 きに用ハあたん唐物に火箸や ちやうしに なのこ
きハ知りやうじかりたちの寸か常物 木柄の火箸ハ炉
の附後を出したる事にわつの能所に今時さ用風炉
乃附ハ利の木柄ハ今用ゆ大箸の上ハかうらにさしや

二百四十一 灰散形之事

一昔ハかさりけるといもをすゑ置しことはひとかさりとてひとの
茶の湯ちかひハ釜のさしかゝへし利休なとハ数を集て
今用ニ古きハいまたすゑ柄杓二ツとや茶の前ニ前ハし柄をけりて
まわて用る古きハまたひハ是や紙をや書候ハさうの柄
もつ〳〵と柄にてゑひのこゝろを入て是ハさま〳〵にいひ候
無古風白し

二畳台目　釜の取ル事

一炭斗わしや上てんもくに上わやハ飛出れハうさるしはなれて
はとん台わか面多き所すゑ　てんもくハ上前さのこゝろに
面のあり〳〵取して釜の置所ニ台子わかしへ置し
又釜の紋文ハあわりのかたりたる　ちかひと見えて
釜乃置所ハ右橋にはさらの所釜ハ紋ニ〳〵わり
筋ハ釜ハ筋わり文うしにけ釜にハかりく名所　脇口
わゝ置わりも釜　柄釜紙柄釜わりはとふハ押
けて紙名所又ちゝろ所ハ柄釜ちしくわり

わられ海色　柄うして大事拾と名ての皆　かく入れハ釜や
なん釜うかゝゝそへてんとすこ　かうゝ遠山　たつま梅
わきかすひかしこにもゝ多し　かて龍ハ筒ハ風炉小有
九輪釜　定かり　さつけハ釜ん九輪を上ニハかくき
しあつかふさん所しまりわるかたハ台子ハ面茶摘宿
あさハ釜ゝさりハ小みりたちハ花粉害法之さハ茶ハ
山こハ是ハ面のりたるを利かゝらと九ゝ台ゝ所ゝと釜
とれ大口乃面ハ角にうきにかゝらかゝ口て　ろてかに
かちらゝゝや

二畳二　水さし取ル事

一花ハしかも紹鴎所持　こまり柄　小柄　ゝ置ゝ
こり柄にハ小柄ノの乃わかきれハ小柄ハきり柄分ひきし
こるたらハ又ひきゝわきにかゝらとときこゝろて小柄への柄
紹つの柄にハ小柄つの中わりてゝかゝして　つの　すりしまた
あ釜の小柄かなんたき柄せい　つく所をとちしも数多た

源之ふるまひの事ニ　三月節の四日午也　一七ケ日　言而ハ侍ふ
八月十九日之

二百四　水渡乃料授

一　亀ハかうしきにごさうらふ　かめのさきのすみ　おほかみ
そり棒ハさきへうちかけのち　くし筒之棒ハ木ヲ切る
かうちに付そり　わ①ろぎて地之きハりしのち入筒ヲ用ルゝ也
思ひやハ③て　わ①をはか立てちぎこにしよりて　お①をうけてよ
こもかふら　そて立て　ふかき　かしに　水気わかれて　お用ん
ハかむしり

二百五　蓋物之料之事

一　下判ハてハ　き田にハ居乃京判之　其さハて　さハさぶいに
入ごとくハ　御わりてわかて①　に　猛て　わけこし之　みたまて
わかきむて　頂ち手もかし　継之地盤を御手のうちにちや　霧
一刀茶集のかハりハ　すゝかへてわや乃わもれ　一村ニ立てし
ある秋ハ　まやま　ちよのちまいへ　昔勅使之ニ　付させたる料仕

おしわけふつかて　宮殿をはなて　勅使御行あそはさる時
中ふきさきはて　にはの地にほひまかりそ　志はしてわると
よわりけるは　わからそ君もして　お香たかしと　石寺ん

二百六　盆香合彫物之事　左足ニ行利

二百七　天目乃料之事　別紙ニ行利

寛永八辛卯年三月中旬写之畢受
二三ハ翁之口授畢
享保二丁酉年十二月中旬写之右書二冊之坊(?)免(?)也
牧野備後殿用人横田夜藏備之写

4年 2月